

あんばい ええまち かわにし創生総合戦略策定に向けた アンケート調査結果概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

市民の結婚・出産・子育てに関する実態や希望、事業者や農業者の実態や地域活性化に向けた意向、都市住民の移住に関する意識などを把握・分析することで、あんばい ええまち かわにし創生総合戦略における施策検討等に活用することを目的にアンケート調査を実施した。

(2) 各種調査の概要

対象	調査概要
市 民	対 象：市内在住の16～49歳の男女（無作為に抽出した1,000名） 調査方法：郵送による配布・回収 調査期間：平成27年7月10日（金）～7月27日（月） 回収状況：343票（回収率34.3%）
事 業 者	対 象：商工会に登録している事業者（無作為に抽出した100社） 調査方法：郵送による配布・回収 調査期間：平成27年7月24日（金）～8月7日（金） 回収状況：43票（回収率43%）
農 業 者	対 象：川西市の農家台帳に登録されている農業者（無作為に抽出した100名） 調査方法：郵送による配布・回収 調査期間：平成27年7月24日（金）～8月7日（金） 回収状況：64票（回収率64%）
都市住民	対 象：市外（大阪市、茨木市、高槻市、吹田市、豊中市、箕面市）に在住で、転居意向のある20代～40代の男女519名 調査方法：インターネット上での調査 調査期間：平成27年7月31（金）日～8月10日（月）

(3) 調査結果の見方

- ・グラフに表示されているN値は有効回答数である。
- ・集計結果の％表示は、小数点第2位を四捨五入してあるので、内訳の合計が100%にならない場合がある。
- ・複数回答が可能な設問の場合、内訳の合計が100%にならない場合がある。

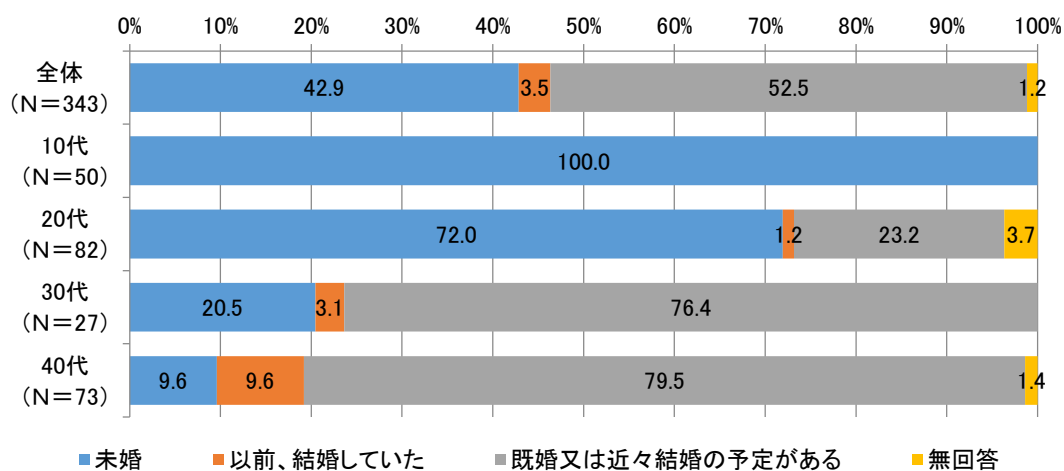
2. 調査結果

(1) 市民

結婚・出産・子育てのことについてお尋ねします。

問1. 結婚の有無【1つに○】

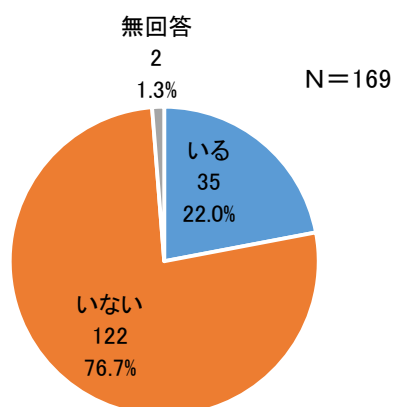
- ・「既婚又は近々結婚の予定がある」回答者と、「未婚」または「以前、結婚していた」回答者がそれぞれ半数程度ずつとなっている。
- ・20代で約4分の1、30代で約4分の3、40代で8割近くが「既婚または近々結婚の予定がある」と回答している。



問2～問5は、問1で「1.未婚」、「2.以前、結婚していた」と回答した方にお尋ねします。

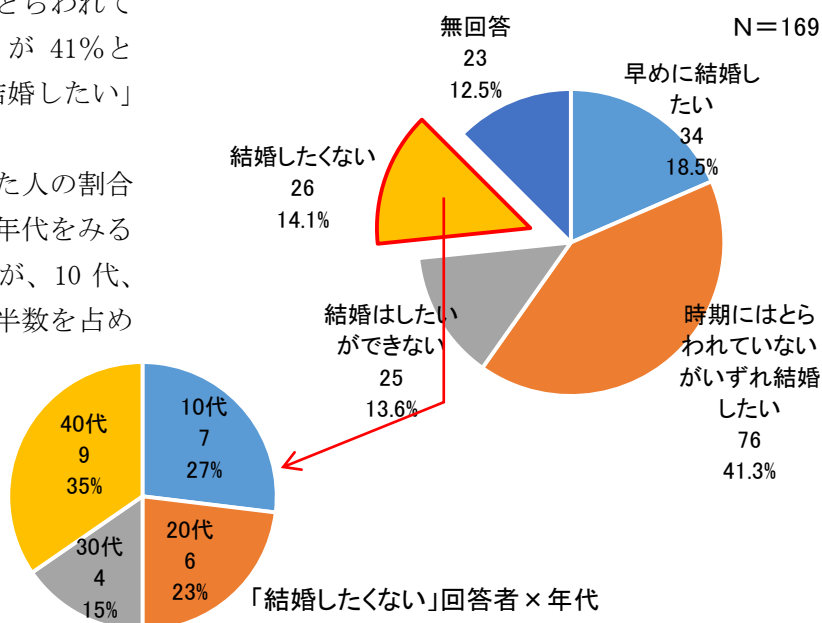
問2. 現在の交際状況【1つに○】

- ・現在の交際状況については、「いない」が8割近くを占める。



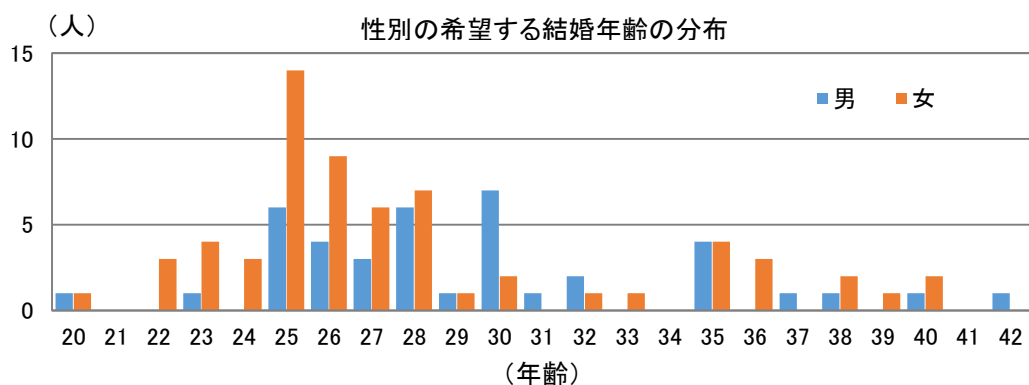
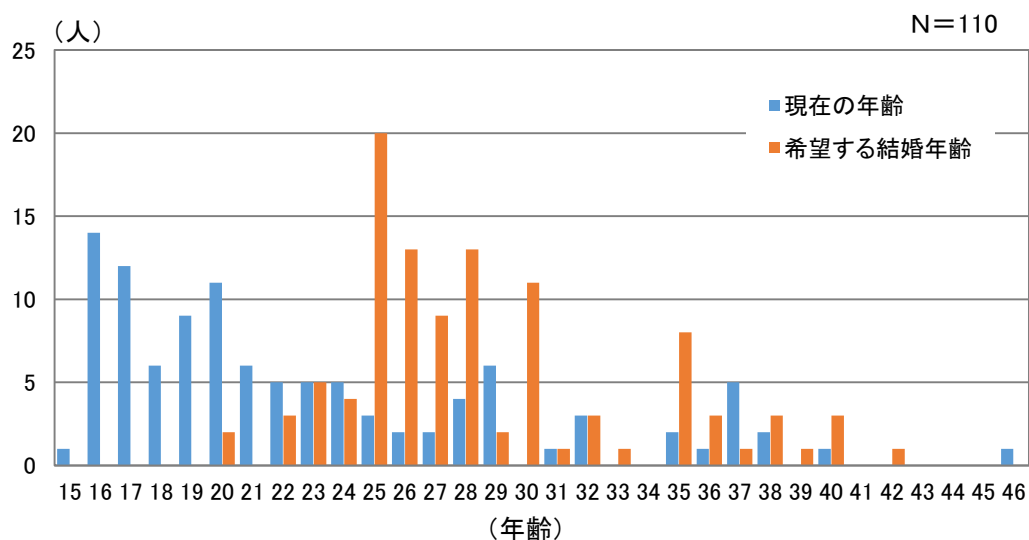
問3.「結婚」についての気持ち【1つに〇】

- 結婚については、「時期にはとらわれていないがいずれ結婚したい」が 41%と最も多く、次いで「早めに結婚したい」が 18%となっている。
- 「結婚したくない」と回答した人の割合は 14%となっており、その年代をみると、40代が 35%と最も多いが、10代、20代の若い世代についても半数を占めている。



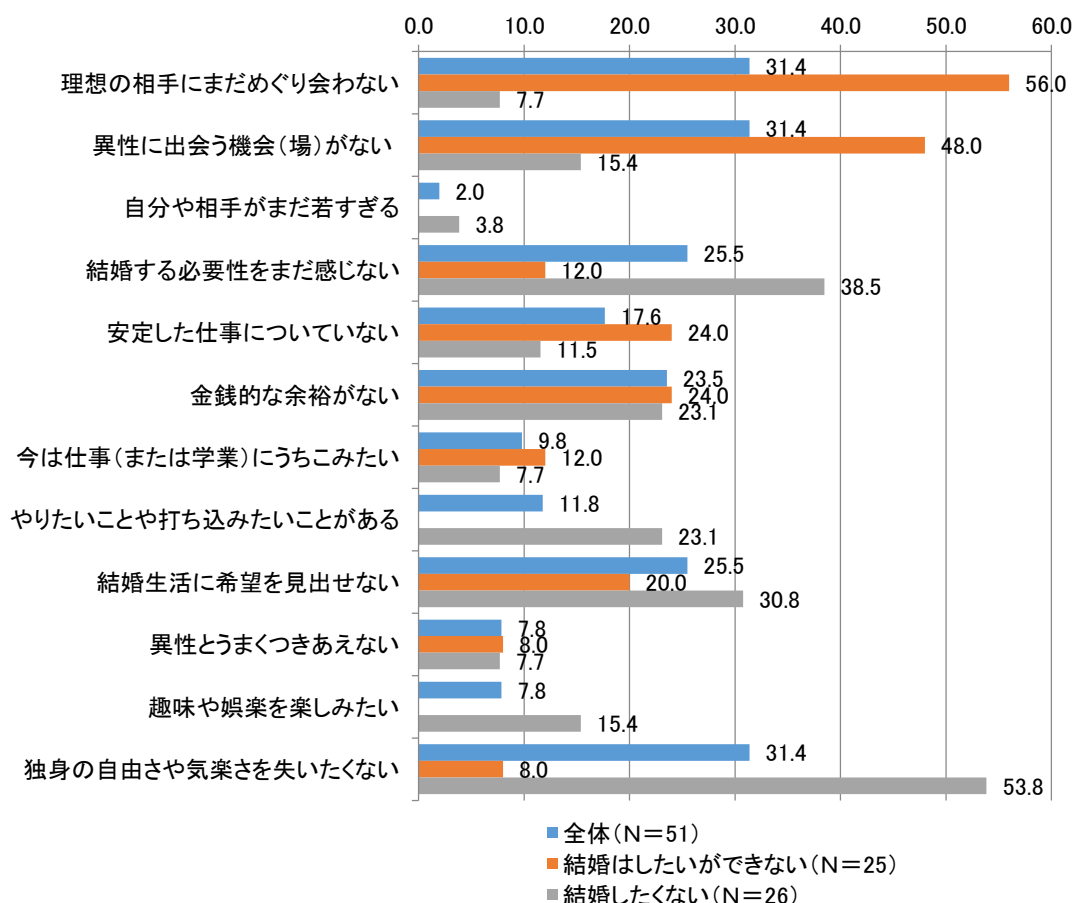
問4. 結婚を希望する年齢（※問3で、「1. 早めに結婚したい」、「2. 時期にはとらわれていないがいずれ結婚したい」と回答した方への質問）

- 結婚を希望する年齢の平均は、28.5歳となっており、25歳が最も多く、25～30歳あたりに回答が集中している。
- 性別でみると、女性の方が結婚を希望する年齢が低く、男性は30歳が最も多くなっている。



問5.「結婚したいができない」「結婚したくない」理由【3つまでに○】

- ・全体では、「理想の相手にまだめぐり会わない」、「異性に会う機会（場）がない」、「独身の自由さや気楽さを失いたくない」が最も多く、31.4%となっている。
- ・「結婚したいができない」と回答した人の理由としては、「理想の相手にまだめぐり会わない」が56.0%と最も多く、「結婚したくない」と回答した人の理由としては、「独身の自由や気楽さを失いたくない」が53.8%と最も多くなっている。



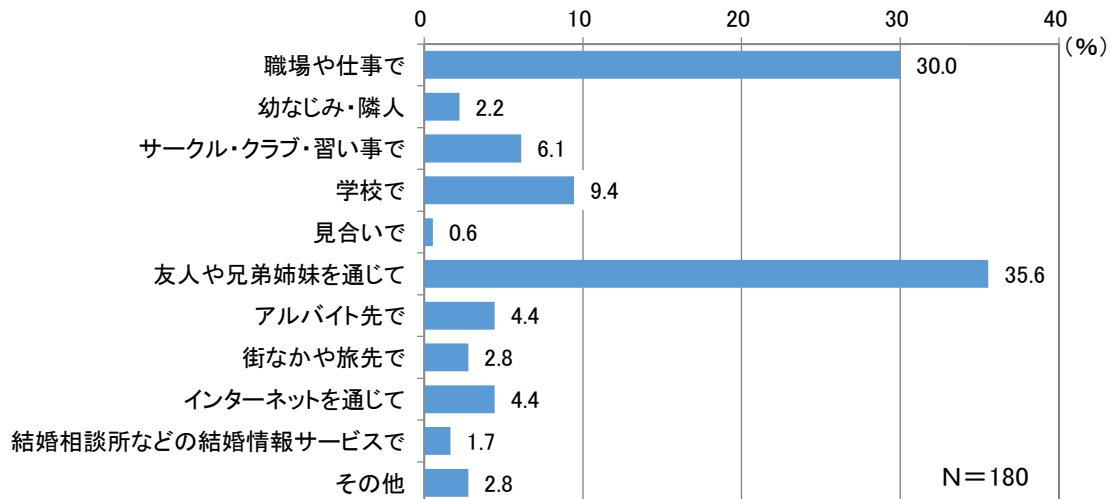
年代別「結婚したいができない」「結婚したくない」理由

	結婚したいができない				結婚したくない			
	10代	20代	30代	40代	10代	20代	30代	40代
	N=1	N=7	N=12	N=3	N=7	N=6	N=4	N=9
理想の相手にまだめぐり会わない	0.0	71.4	58.3	66.7	0.0	0.0	0.0	22.2
異性に会う機会（場）がない	0.0	57.1	50.0	33.3	0.0	16.7	25.0	22.2
自分や相手がまだ若すぎる	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
結婚する必要性をまだ感じない	100.0	28.6	0.0	0.0	28.6	83.3	25.0	22.2
安定した仕事についていない	0.0	28.6	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	22.2
金銭的な余裕がない	0.0	0.0	41.7	0.0	14.3	0.0	75.0	22.2
今は仕事（または学業）にうちこみたい	0.0	14.3	16.7	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0
やりたいことや打ち込みたいことがある	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	50.0	0.0	22.2
結婚生活に希望を見出せない	0.0	14.3	25.0	33.3	57.1	0.0	50.0	22.2
異性とうまくつきあえない	0.0	0.0	8.3	0.0	14.3	0.0	25.0	0.0
趣味や娯楽を楽しみたい	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	16.7	25.0	0.0
独身の自由さや気楽さを失いたくない	0.0	14.3	0.0	33.3	42.9	83.3	25.0	55.6

問6～問7は、問1で「3. 既婚又は近々結婚の予定がある」と回答した方にお尋ねします。

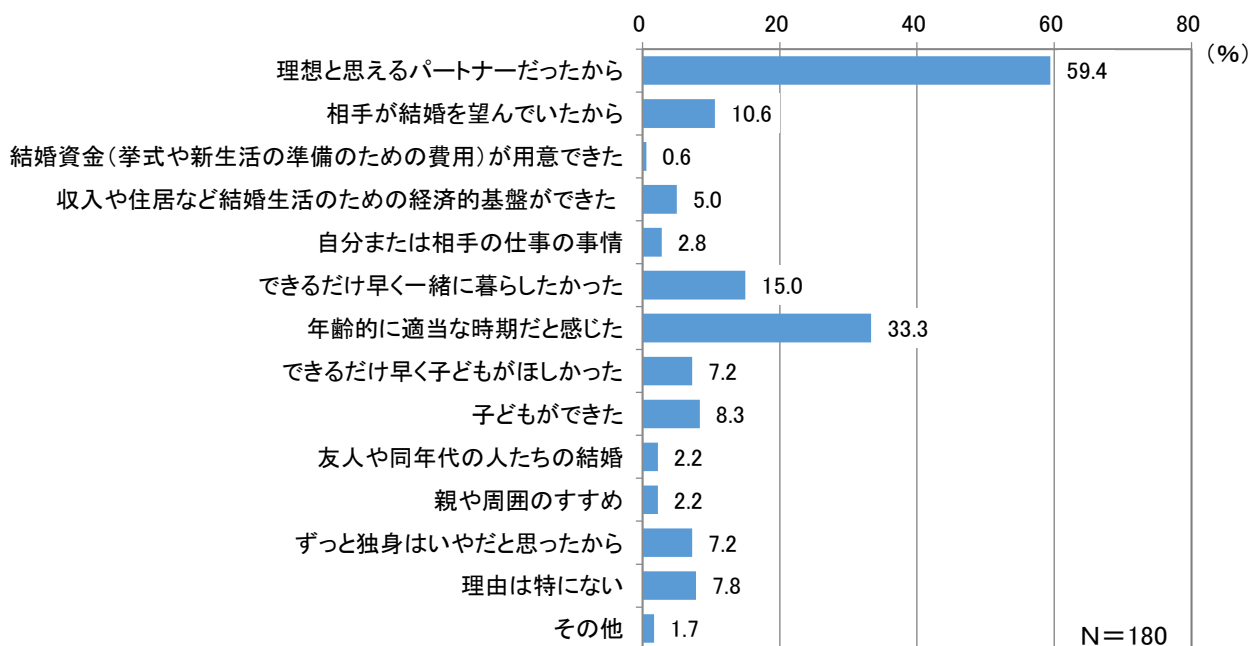
問6. 今のパートナーとの知り合うきっかけ【1つに○】

- ・結婚相手と知り合うきっかけとしては、「友人や兄弟姉妹を通じて」が最も多く 35.6%、次いで「職場や仕事で」が 30.0%となっている。



問7. 今のパートナーと結婚を決めたきっかけ【2つに○】

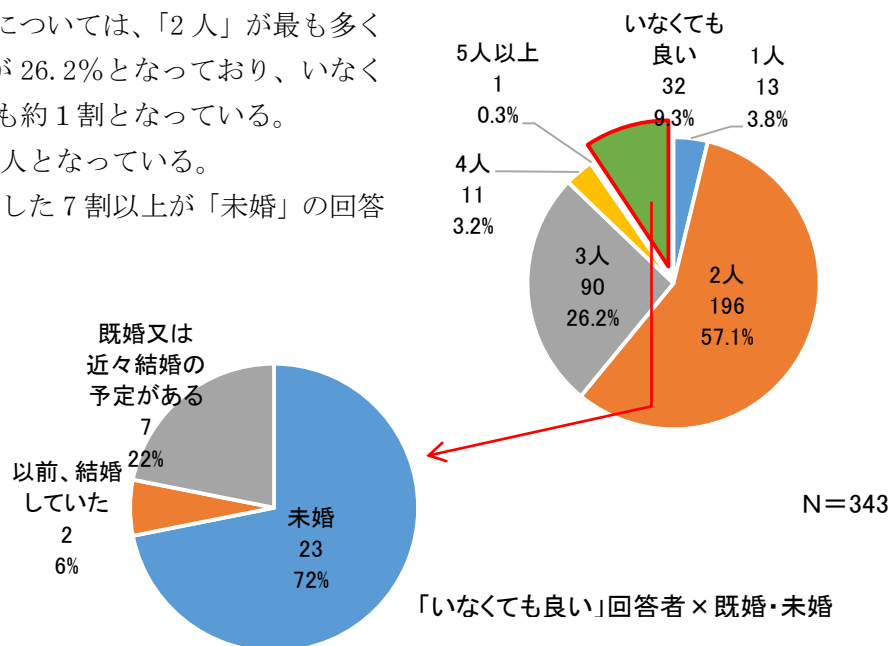
- ・結婚を決めたきっかけとしては、「理想と思えるパートナーだったから」が最も多く 59.4%、次いで「年齢的に適当な時期だと感じた」が 33.3%となっている。



問8～問14は、すべての方にお尋ねします。

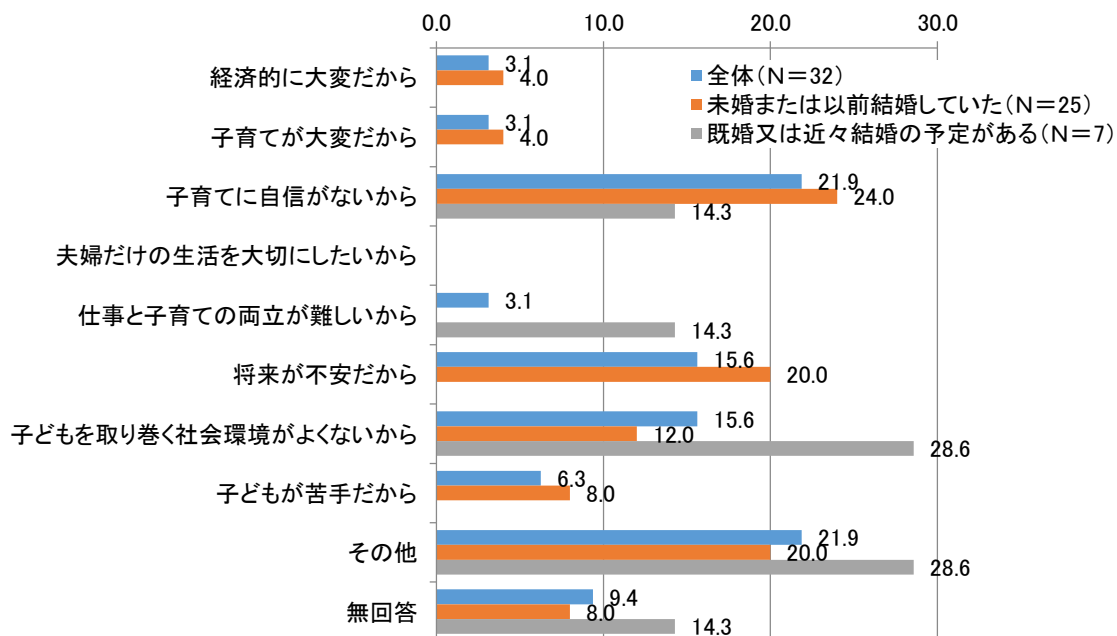
問8. 理想とする子どもの人数【1つに○】

- ・理想とする子どもの人数については、「2人」が最も多く57.1%、次いで「3人」が26.2%となっており、いなくとも良いと考える回答者も約1割となっている。
- ・平均の子ども数は、2.11人となっている。
- ・「いなくとも良い」と回答した7割以上が「未婚」の回答者となっている。



問9. 問8で「いなくとも良い」と回答した方の理由【1つに○】

- ・子どもがいなくとも良いと回答した方の理由としては、「子育てに自信がないから」が最も多く、21.9%となっている。

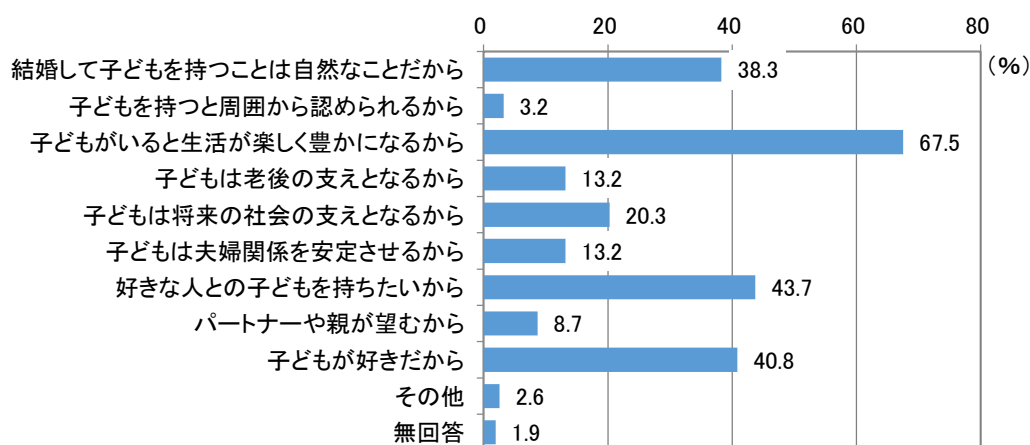


(その他の具体的な内容)

- ・人口問題だけにこだわらず多様性を認める社会を考えるべき
- ・授かるものだと思うので授からなければそれでよい
- ・生まれる子供が障害をもつ可能性があるから
- ・趣味を楽しみたいから
- ・高齢出産なので
- ・不妊のためできない

問 10. 問8で1～5人以上と回答した方の子どもを欲しいと思う理由【あてはまるものすべてに○】

- ・子どもを欲しい理由としては、「子どもがいると生活が楽しく豊かになるから」が最も多く、67.5%となっている。

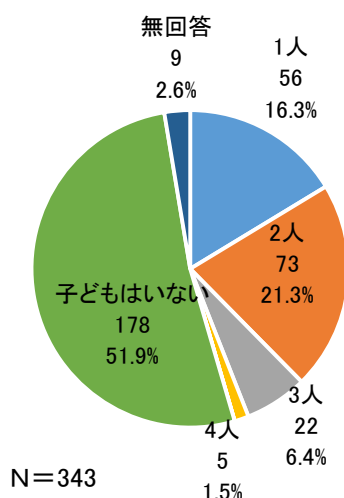


N=311

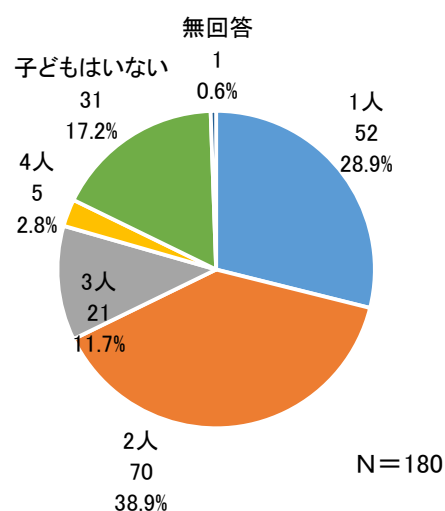
問 11. 現在の子どもの人数【1つに○】

- ・現在の子どもの人数は、回答者全員では、「子どもはいない」が最も多く 51.9%、次いで「2人」が21.3%となっており、平均は、「0.84人」となっている。
- ・「既婚又は結婚の予定がある」と回答した方では、「2人」が最も多く 38.9%となっており、平均は「1.53人」となっている。
- ・「既婚又は近々結婚の予定がある」と回答した方の「現在」と「理想」の子ども数を比較すると、6割以上の回答者が「理想」よりも「現在」の子ども数が少なくなっており、「理想」よりも「現在」の子ども数が多いと答えた方は3.9%となっている。

【回答者全員】



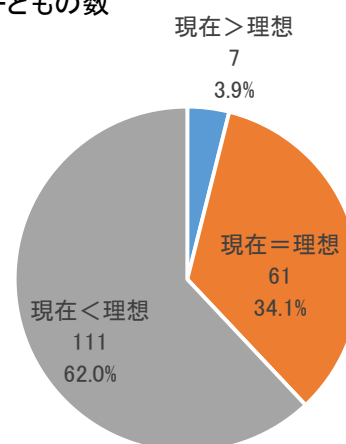
【既婚又は近々結婚の予定がある回答者】



既婚又は近々結婚の予定がある回答者の「現在」及び「理想とする」子どもの数

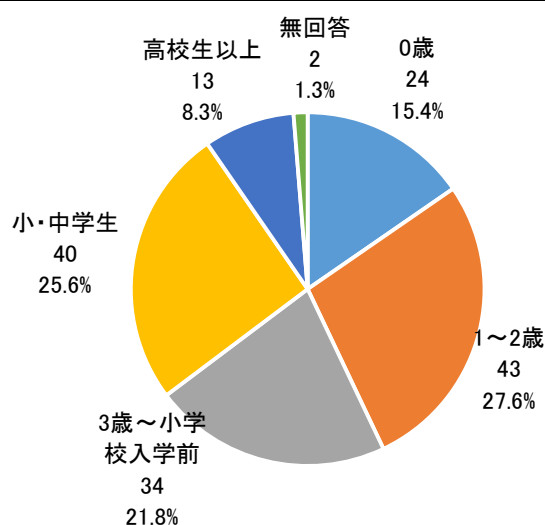
		現在							
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	合計	
理想	いなくても良い	5	0	0	1	0	0	6	3.4
	1人	2	3	0	0	0	0	5	2.8
	2人	22	38	35	3	1	0	99	55.3
	3人	2	11	31	16	2	0	62	34.6
	4人	0	0	3	1	2	0	6	3.4
	5人以上	0	0	1	0	0	0	1	0.6
合計		31	52	70	21	5	0	179	100.0
		17.3	29.1	39.1	11.7	2.8	0.0	100.0	

※不明を除く



問 12. 子どもを持たれている回答者の末子の年齢【1つに○】

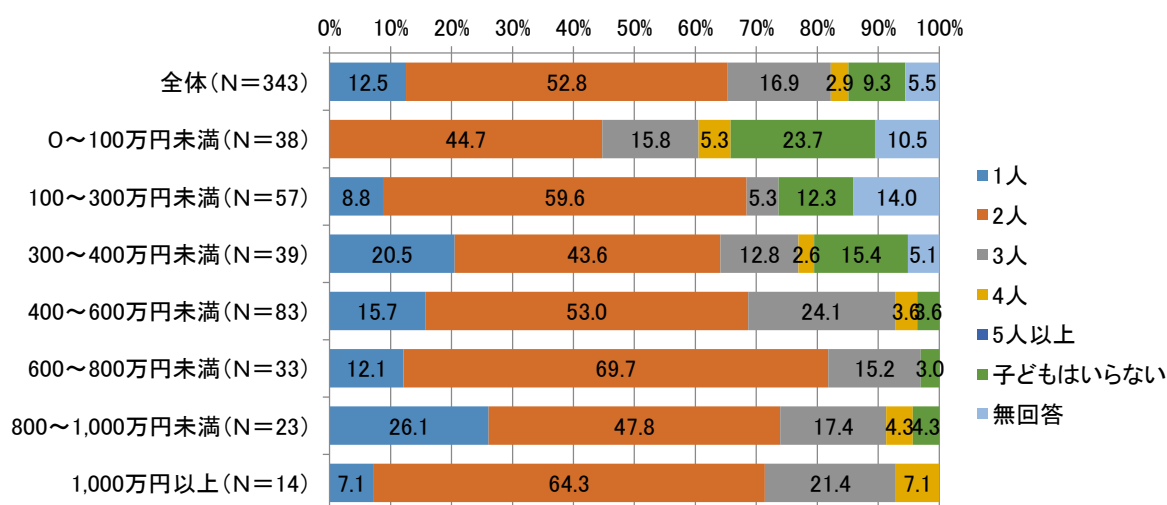
- ・末子の年齢は、「1～2歳」が最も多く 27.6% となっており、就学前までが 6 割以上を占めている。



N=156

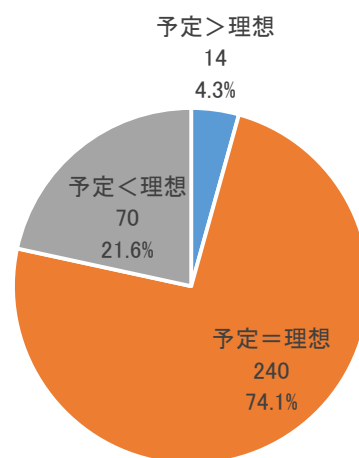
問 13. 将来に持つ子どもの予定数【1つに○】

- ・将来、予定する子ども数については、「2人」が最も多く 52.8%、次いで「3人」が 16.9%となっている。
- ・所得が少ないほど、「子どもはいらない」と回答する割合が高くなる傾向にある。



- ・「予定」と「理想」の子ども数を比較すると、約 4 分の 3 の回答者が「予定」と「理想」の子ども数が等しくなっており、内訳をみると、「2 人」という回答が多くなっている。
- ・「予定」が「理想」よりも少ない回答者も約 2 割となっており、平均値も、「理想」の 2.11 人に対し、「予定」が 1.80 人となっている。

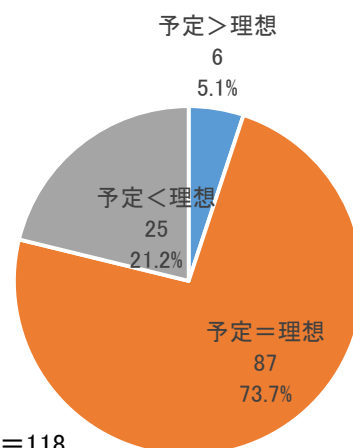
		予定							
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	合計	
理想	いなくても良い	9	2	0	0	0	0	11	9.3
	1人	0	8	0	0	0	0	8	6.8
	2人	3	8	53	3	1	0	68	57.6
	3人	1	1	10	16	0	0	28	23.7
	4人	0	0	1	0	1	0	2	1.7
	5人以上	0	0	1	0	0	0	1	0.8
	合計	13	19	65	19	2	0	118	100.0
		11.0	16.1	55.1	16.1	1.7	0.0	100.0	



N=324

【男性】

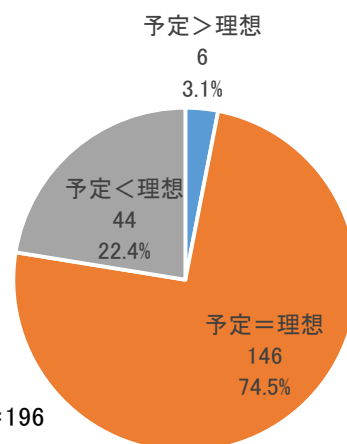
		予定							
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	合計	
理想	いなくても良い	24	3	1	1	0	0	29	9.0
	1人	0	12	0	0	0	0	12	3.7
	2人	6	24	149	5	2	0	186	57.4
	3人	2	4	29	49	2	0	86	26.5
	4人	0	0	1	3	6	0	10	3.1
	5人以上	0	0	1	0	0	0	1	0.3
	合計	32	43	181	58	10	0	324	100.0
		9.9	13.3	55.9	17.9	3.1	0.0	100.0	



N=118

【女性】

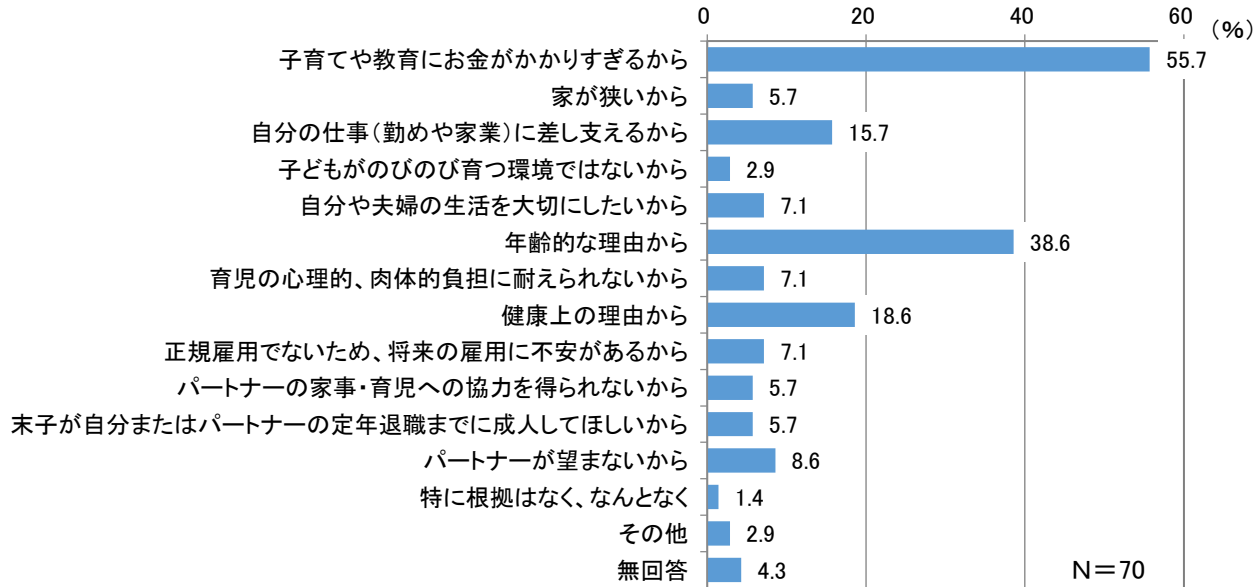
		予定							
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	合計	
理想	いなくても良い	15	1	1	0	0	0	17	8.7
	1人	0	4	0	0	0	0	4	2.0
	2人	3	16	91	2	1	0	113	57.7
	3人	1	3	18	31	1	0	54	27.6
	4人	0	0	0	3	5	0	8	4.1
	5人以上	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	19	24	110	36	7	0	196	100.0
		9.7	12.2	56.1	18.4	3.6	0.0	100.0	



N=196

問 14.「理想の子どもの数」より、「将来に持つ予定の子どもの数」が少なかった方の理由【あてはまるものすべてに○】

- ・「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も多く 55.7%となっており、次いで「年齢的な理由から」が 38.6%となっている。
- ・性別でみると、男性では「年齢的な理由から」、女性では「自分の仕事に差し支えるから」、「健康上の理由から」の割合が高くなっている。

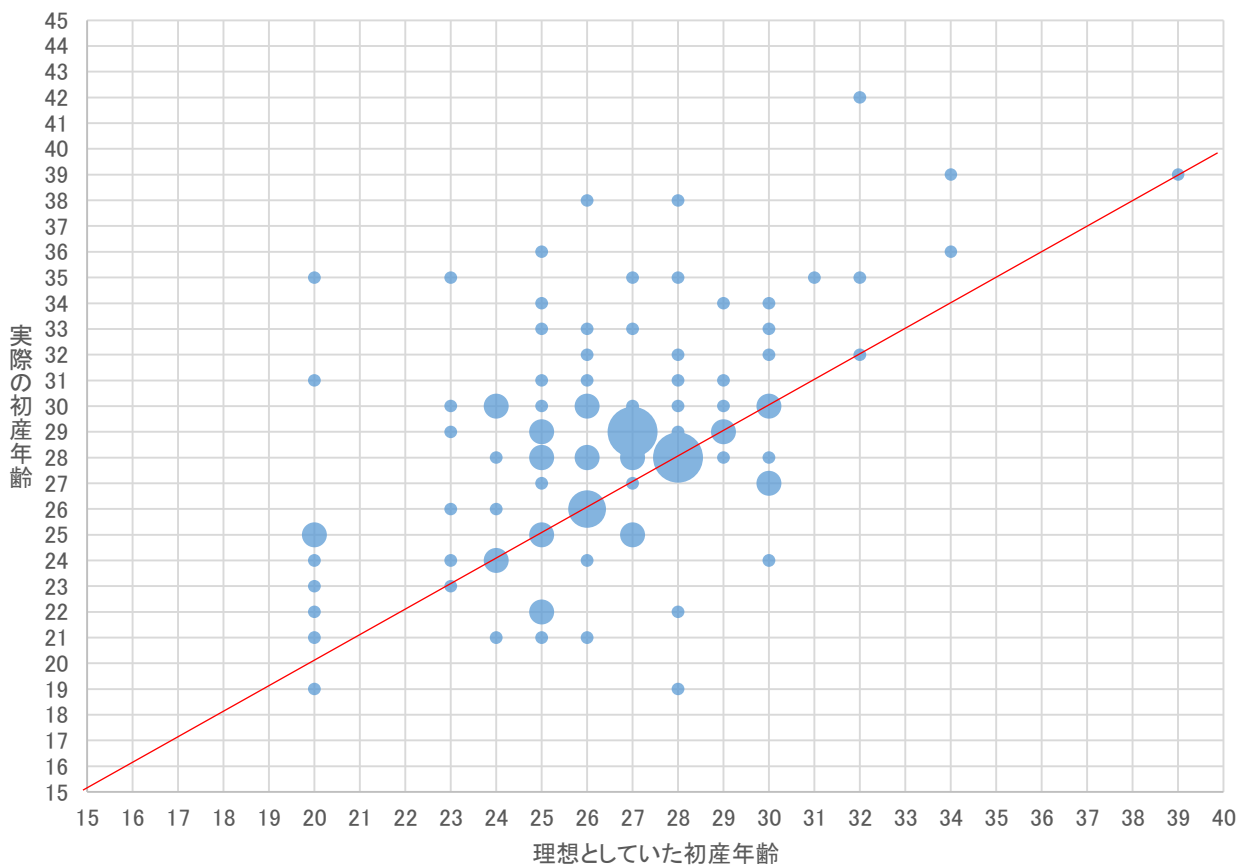
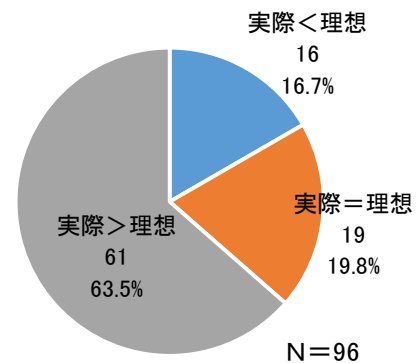


	総数	男性	女性	10・20代	30代	40代	300万円未満	300～400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800万円以上
N値	70.0	25	44.0	9.0	33.0	27.0	12	10	27	8	6
子育てや教育にお金がかかりすぎるから	55.7	52.0	56.8	66.7	57.6	48.1	58.3	50.0	59.3	62.5	16.7
家が狭いから	5.7	4.0	6.8	11.1	6.1	3.7	8.3	0.0	3.7	0.0	0.0
自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから	15.7	12.0	18.2	22.2	21.2	7.4	50.0	10.0	7.4	12.5	16.7
子どもがのびのび育つ環境ではないから	2.9	4.0	2.3	0.0	3.0	3.7	8.3	0.0	0.0	12.5	0.0
自分や夫婦の生活を大切にしたいから	7.1	8.0	6.8	33.3	6.1	0.0	0.0	0.0	7.4	0.0	16.7
年齢的な理由から	38.6	48.0	34.1	0.0	39.4	51.9	25.0	50.0	48.1	25.0	66.7
育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから	7.1	4.0	9.1	0.0	12.1	3.7	8.3	10.0	0.0	0.0	50.0
健康上の理由から	18.6	12.0	22.7	22.2	21.2	14.8	25.0	20.0	18.5	12.5	33.3
正規雇用でないため、将来の雇用に不安があるから	7.1	4.0	9.1	0.0	9.1	7.4	16.7	0.0	7.4	0.0	0.0
パートナーの家事・育児への協力を得られないから	5.7	0.0	9.1	0.0	9.1	3.7	0.0	10.0	3.7	0.0	16.7
末子が自分またはパートナーの定年退職までに成人してほしいから	5.7	8.0	4.5	11.1	3.0	7.4	16.7	0.0	3.7	12.5	0.0
パートナーが望まないから	8.6	8.0	9.1	11.1	3.0	14.8	0.0	20.0	3.7	25.0	0.0
特に根拠はなく、なんとなく	1.4	4.0	0.0	0.0	0.0	3.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	2.9	4.0	2.3	0.0	3.0	3.7	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0

問 15～問 16 は、子どもがいる女性の方にお尋ねします。

問 15. 理想としていた初産年齢と実際に子どもを持った初産年齢

- ・「理想」よりも「実際」の初産年齢の方が高かった回答者が 63.5%と半数以上を占めており、「理想」と「実際」が同じ年齢であった回答者は 16.8%となっている。
- ・理想としていた年齢は 25～30 歳に集中しており、実際の初産年齢は 20 代後半に集中しており、2～3 歳程度の遅れが生じている。



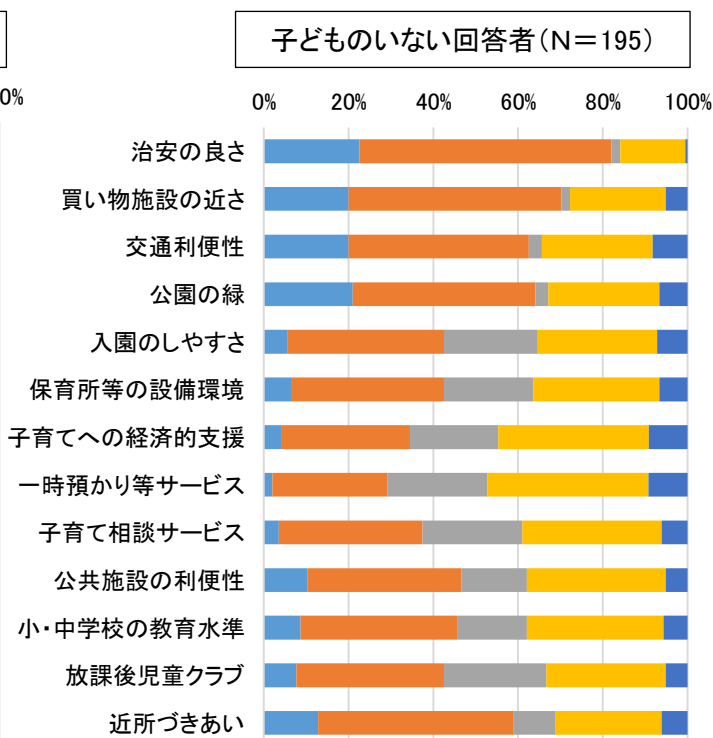
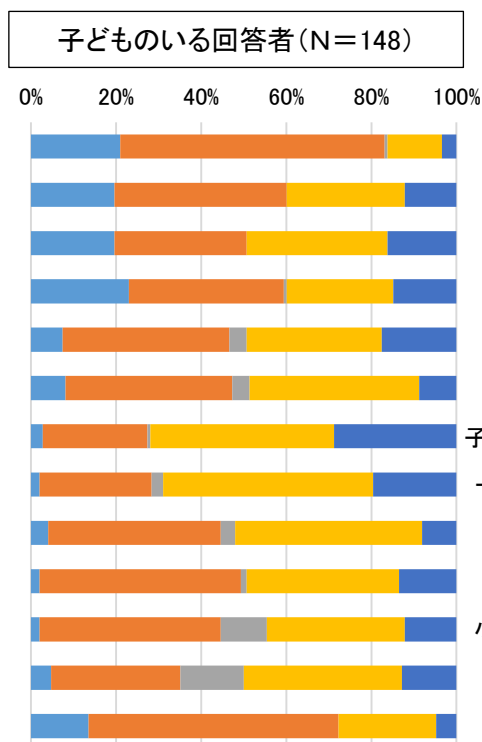
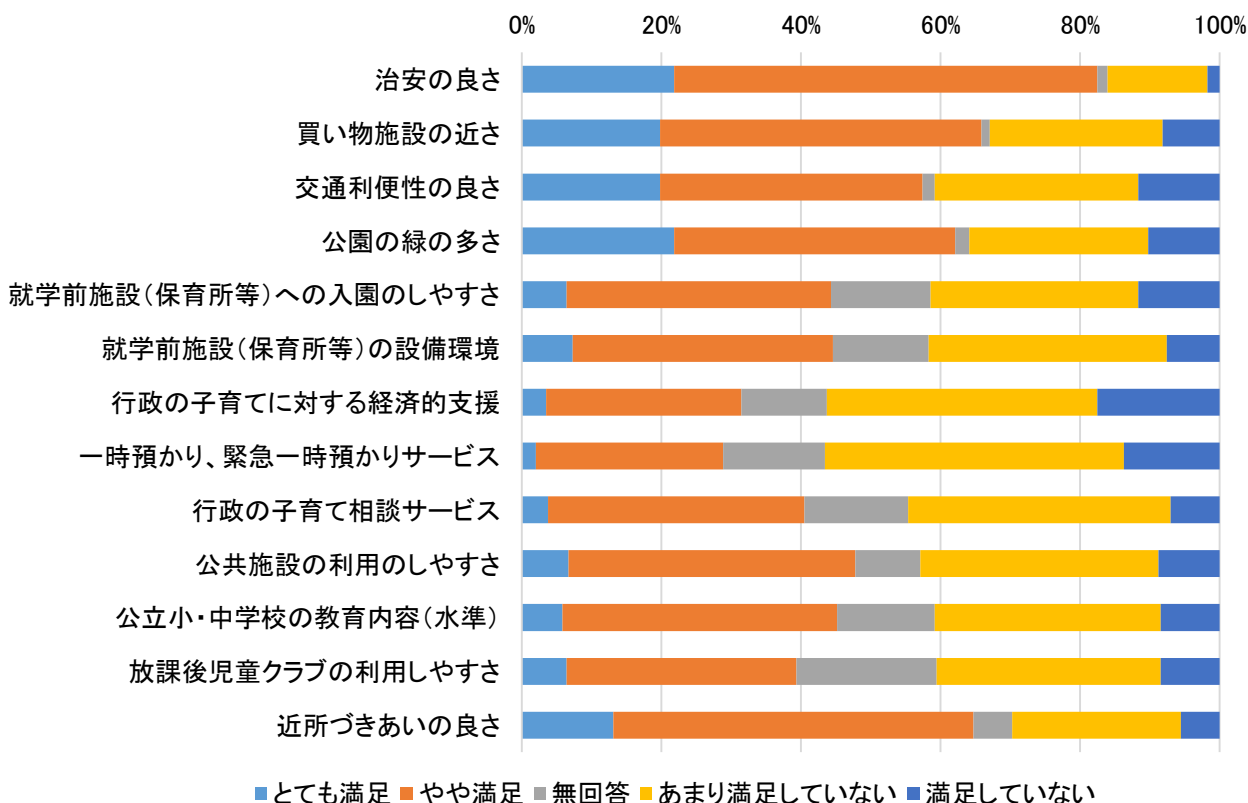
問 16. 理想としていた初産年齢と比べて、実際の初産年齢が遅かった方の理由

- ・「良い相手に出会わなかった」、「理想としていた年齢で結婚していなかった」、「結婚が遅かった」など、結婚の時期が遅かったという意見が 34 件と最も多くなっている。
- ・「すぐに妊娠しなかった」、「不妊治療を行っていた」など、子どもができなかったという意見も 17 件と多くなっている。
- ・「残業が多く、仕事が忙しかった」「仕事と出産のタイミングが合わなかった」など、仕事が理由であるという意見も 8 件となっている。

問 17～問 20 は、すべての方にお尋ねします。

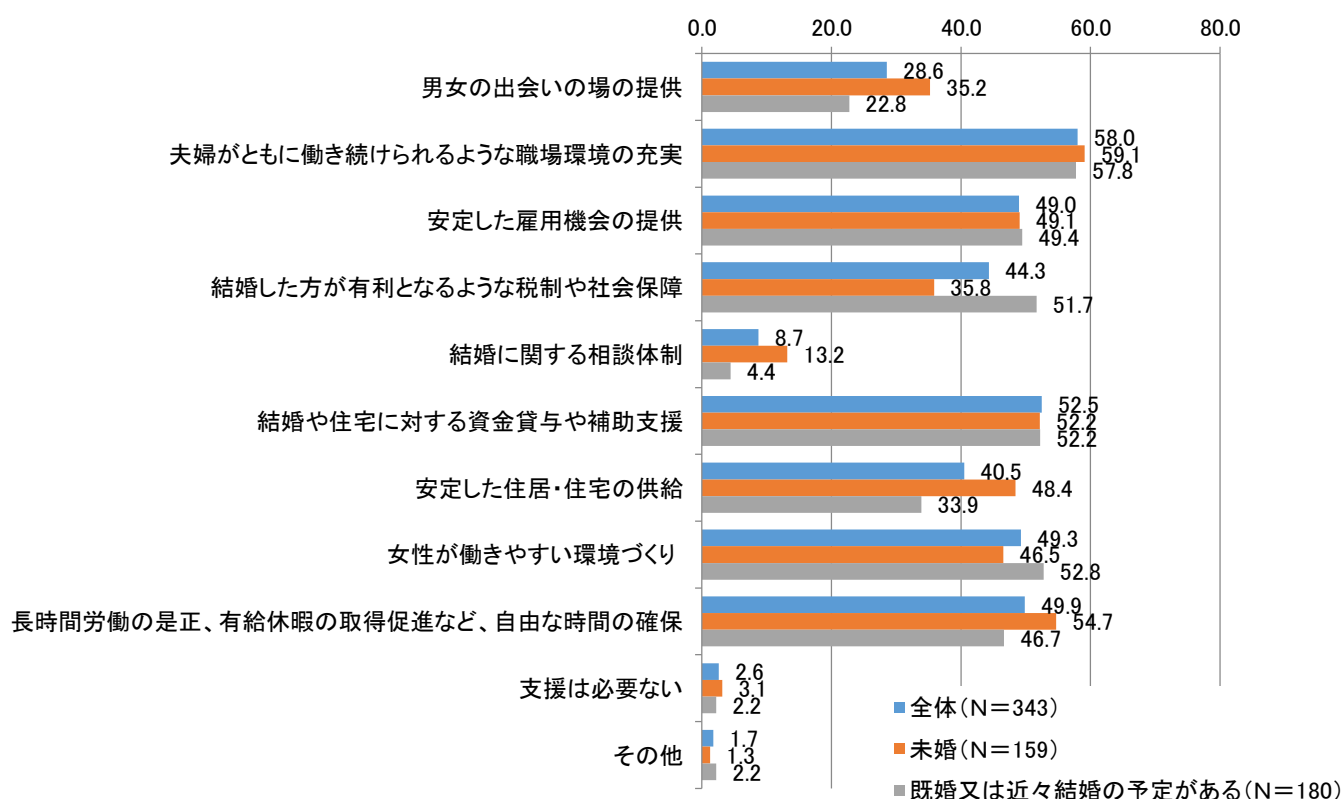
問 17. 子育てを行う上での川西市の環境の評価

- ・子育てを行う上での川西市の環境の評価としては、「治安の良さ」「買い物施設の近さ」「近所づきあいの良さ」などの満足度が高くなっている一方、「行政の子育てに対する経済的支援」「一時預かり、緊急一時預かりサービス」などの満足度が低くなっている。
- ・子どもの有無別にみると、子どものいる回答者の方が、全体的に満足度が低くなっている。



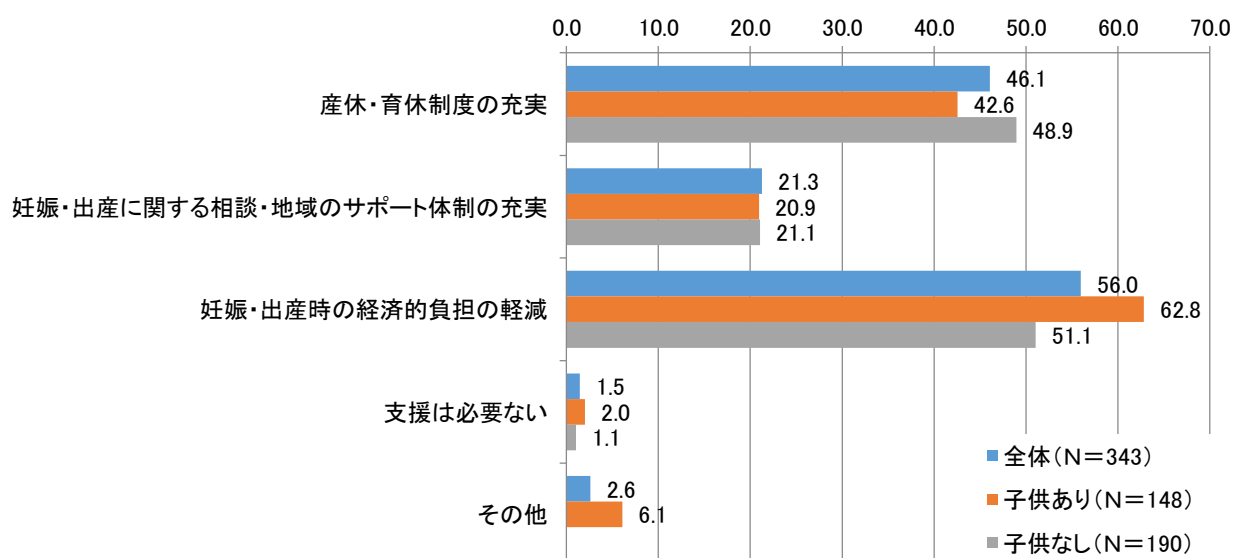
問 18. 結婚しやすい、結婚したいと思える環境づくりに効果的な支援【あてはまるものすべてに○】

・「夫婦がともに働き続けられるような職場環境の充実」が最も多く 58.0%、次いで「結婚や住宅に対する資金貸与や補助支援」が 52.5%となっている。



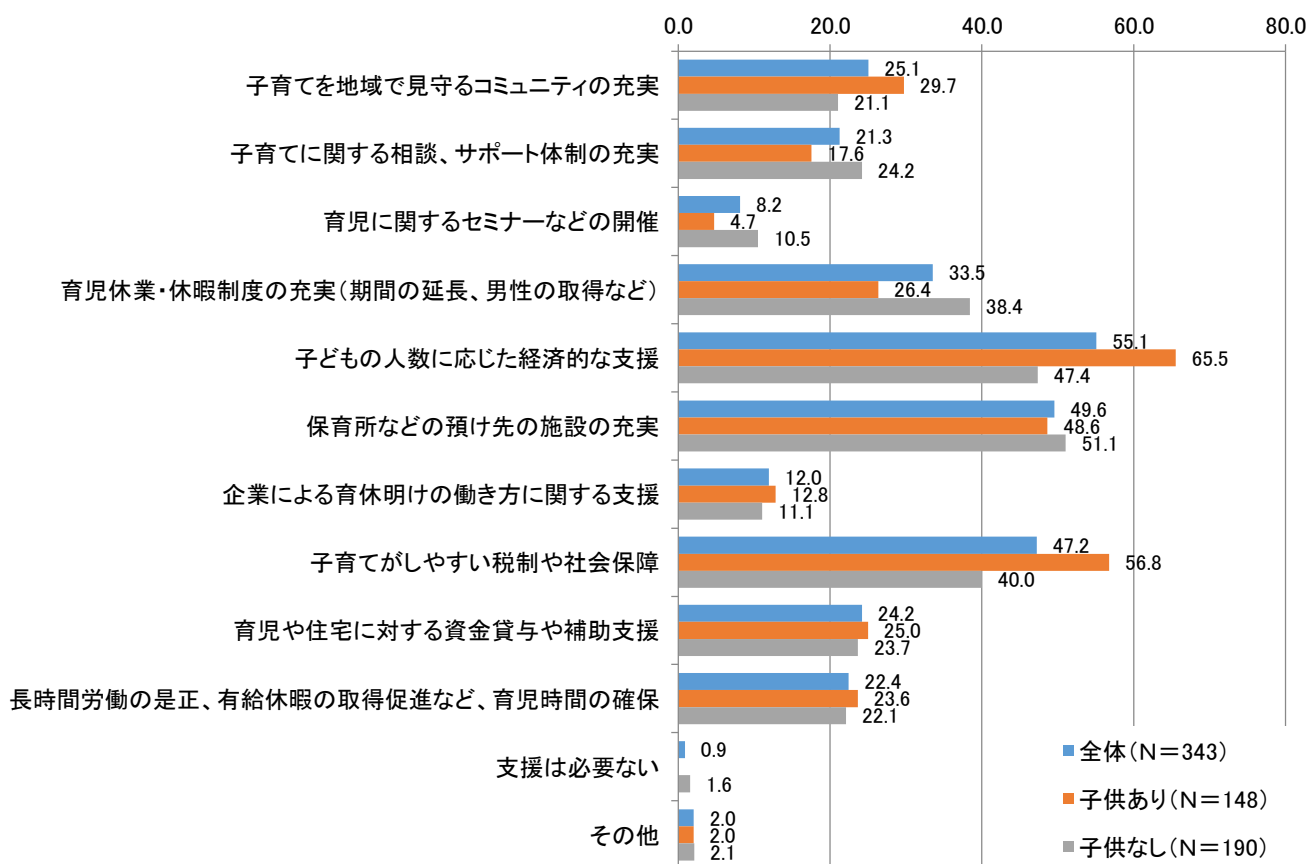
問 19. 出産しやすい環境づくりのための支援

・「妊娠・出産時の経済的負担の軽減」が最も多く 56.0%、次いで「産休・育休制度の充実」が 46.1%となっている。



問 20. 子育てしやすい環境づくりのための支援【3つまでに○】

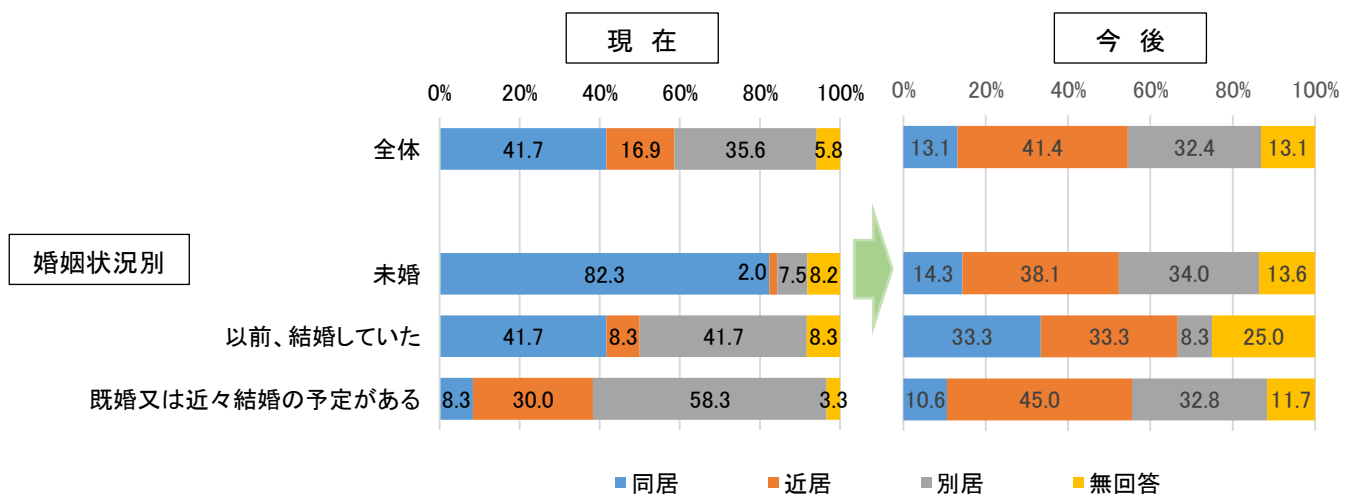
- ・「子どもの人数に応じた経済的な支援」が最も多く 55.1%、次いで「保育所などの預け先の施設の充実」が 49.6%、「子育てがしやすい税制や社会保障」が 47.2%となっている。
- ・子どものいる回答者では、「子育てしやすい税制や社会保障」を求める割合が高くなっている一方、子供のいない回答者では、「育児休業・休暇制度の充実（期間の延長、男性の取得など）」を求める割合が高くなっている。



親との居住関係についてお尋ねします。

問 21. 現在の自分または相手の親との居住関係、及び今後の意向

- ・親との居住関係については、現在は「同居」が最も多く 41.7%となっており、今後の意向としては「近居」が最も多く 41.4%となっている。
- ・現在の婚姻状況別にみると、未婚の回答者は、現在 8 割以上が「同居」している一方、既婚又は近々結婚の予定がある回答者は 6 割近くが「別居」している。
- ・既婚又は近々結婚の予定がある回答者を対象に、現在の親との居住関係別の子ども数を見ると、「同居」と「別居」では大きな差異はみられないものの、「近居」では、3～4 人の子どもを持つ回答者割合が高く、平均の子ども数では、「別居」している回答者の平均と 0.4 人の差がある。

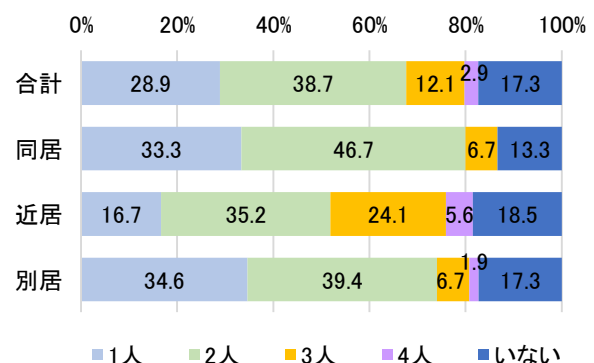


(※1) 近居…親(子)世代と同居していないが、市内に居住していること。
 (※2) 別居…親(子)世代と同居しておらず、市外に居住していること。

■現在の親との居住関係別現在の子ども数（既婚又は近々結婚の予定がある回答者）

		現在			
		同居	近居	別居	合 計
現在の子ども数	1人	5	9	36	50
	2人	7	19	41	67
	3人	1	13	7	21
	4人	0	3	2	5
	いない	2	10	18	30
	合 計	15	54	104	173
平均		1.47	1.81	1.41	1.54

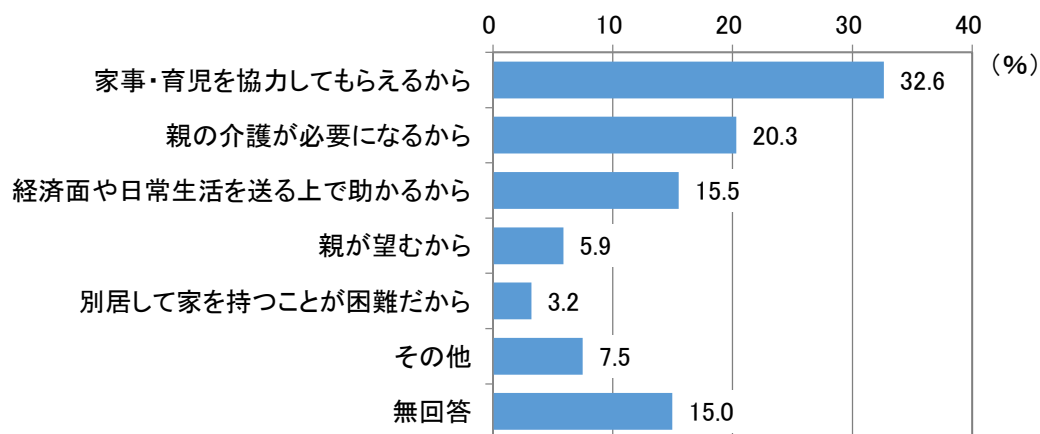
※不詳を除く



問 22 は、問 21 の今後の意向で「1. 同居したい」「2. 近居したい」と答えた方にのみお尋ねします。

問 22. 親世代と同居や近居をしたいと考える理由【1 つに○】

- ・親世代と同居や近居を望む理由としては、「家事・育児を協力してもらえるから」が最も多く 32.6%、次いで「親の介護が必要となるから」が 20.3%、「経済面や日常生活を送る上で助かるから」が 15.5% となっている。
- ・今後の親との居住関係の意向別に、将来、持ちたいと思う子ども数を比較すると、「同居」や「近居」では、3 人と回答している割合が高く、平均では、近居が 2.09 と最も高くなっている。

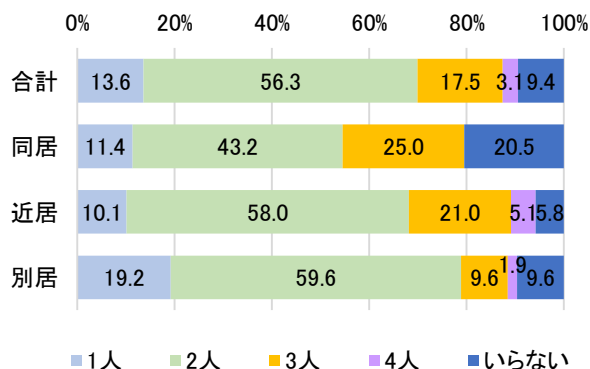


N=187

■今後の親との居住関係の意向別、将来の子ども数

		今後			
		同居	近居	別居	合計
将来の子ども数	1人	5	14	20	39
	2人	19	80	62	161
	3人	11	29	10	50
	4人	0	7	2	9
	いない	9	8	10	27
	合計	44	138	104	286
平均		1.73	2.09	1.75	1.91

※不詳を除く



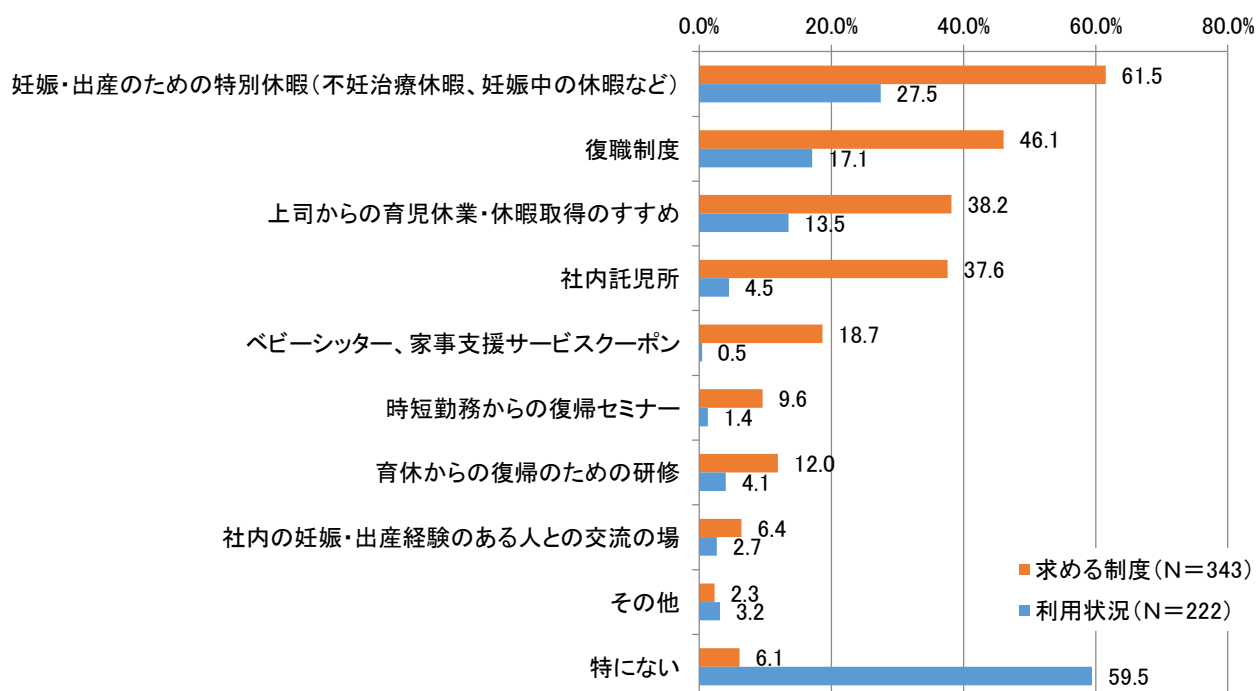
仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についてお尋ねします

問 23 は、すべての方に、問 24 は、現在働いている方及び働いたことがある方にお尋ねします。

問 23. あなたが職場に求める出産・子育て支援の制度や取組は何ですか。【3つまでに○】

問 24. 職場での出産・子育て支援の制度や取組の利用状況【あてはまるものすべてに○】

- ・職場に求める出産・子育て支援の制度や取組については、「妊娠・出産のための特別休暇（不妊治療休暇、妊娠中の休暇など）」が最も多く 61.5%、次いで「復職制度」が 46.1%となっている。
- ・一方、利用状況についてみると、「妊娠・出産のための特別休暇（不妊治療休暇、妊娠中の休暇など）」が最も高いが、27.5%に留まっている。

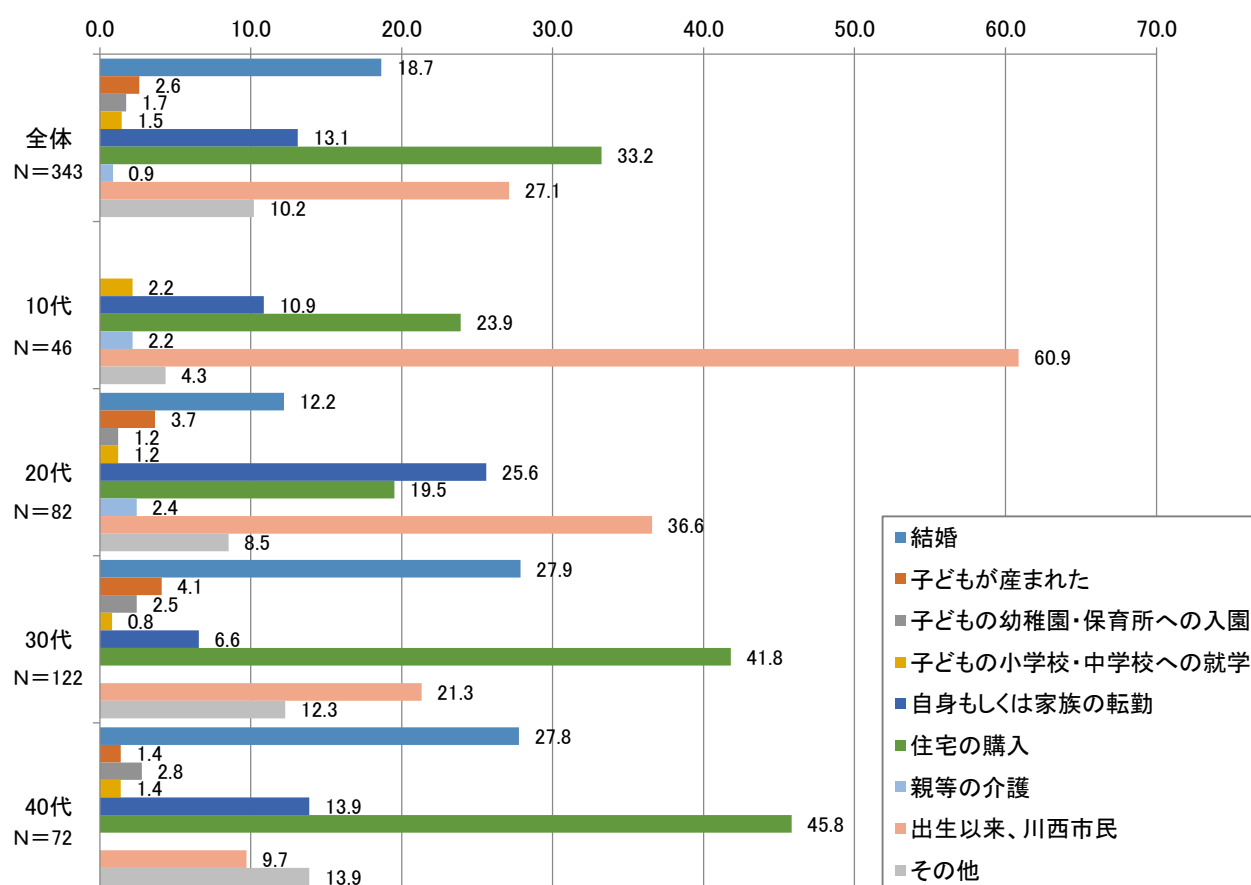


今後の住まい方についてお尋ねします。

問 25～問 28 は、すべての方にお尋ねします。

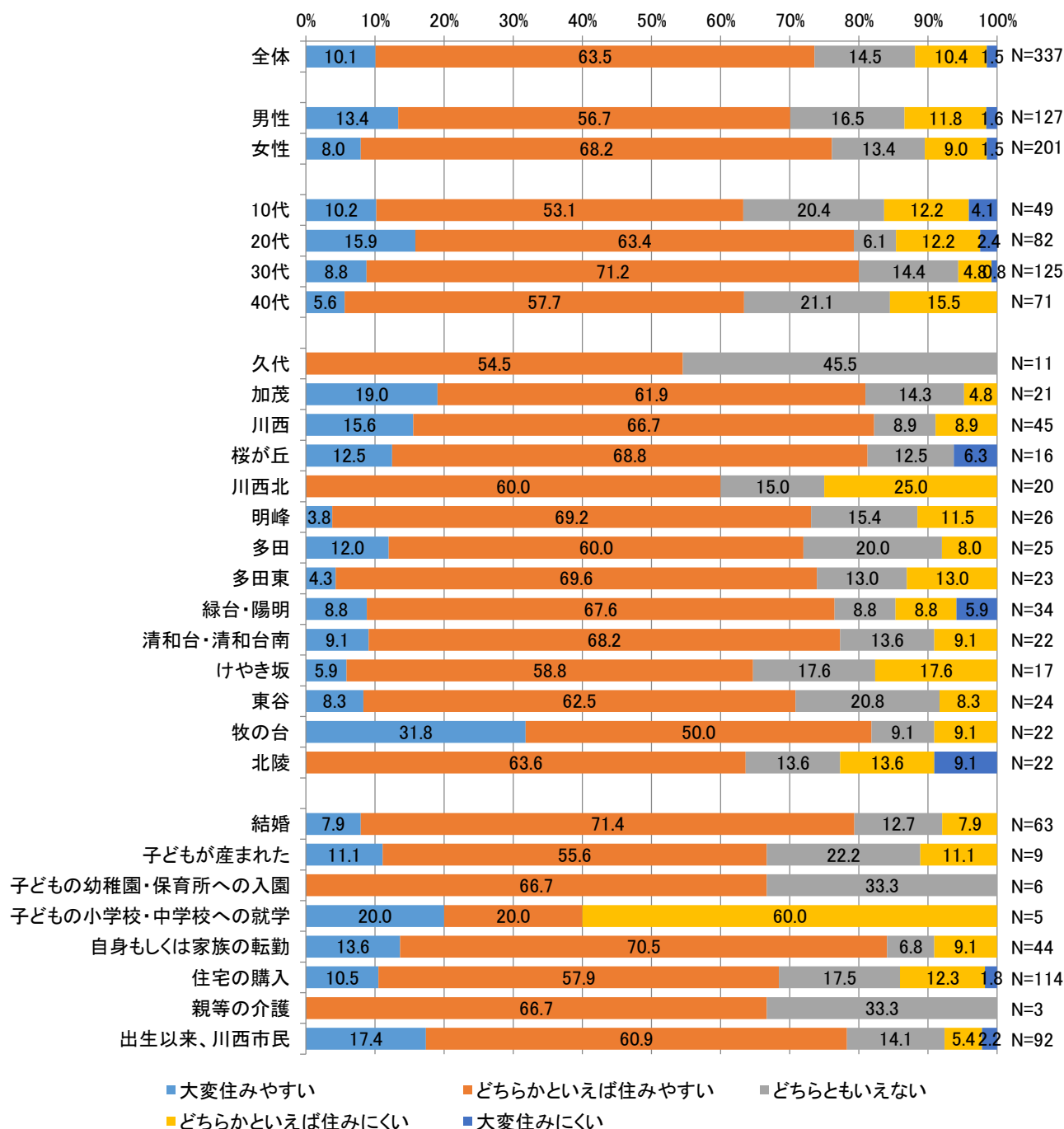
問 25. 川西市にお住まいになったきっかけ【あてはまるものすべてに○】

- ・「住宅の購入」が最も多く 33.2%、次いで「出生以来、川西市民」が 27.1%、「結婚」が 18.7%となっている。
- ・年代別にみると、年代が高くなるほど、「出生以来、川西市民」の割合が減少し、「住宅の購入」の割合は増加している。



問 26. 総合的にみて、川西市は住み良いところだと感じますか。【1つに○】

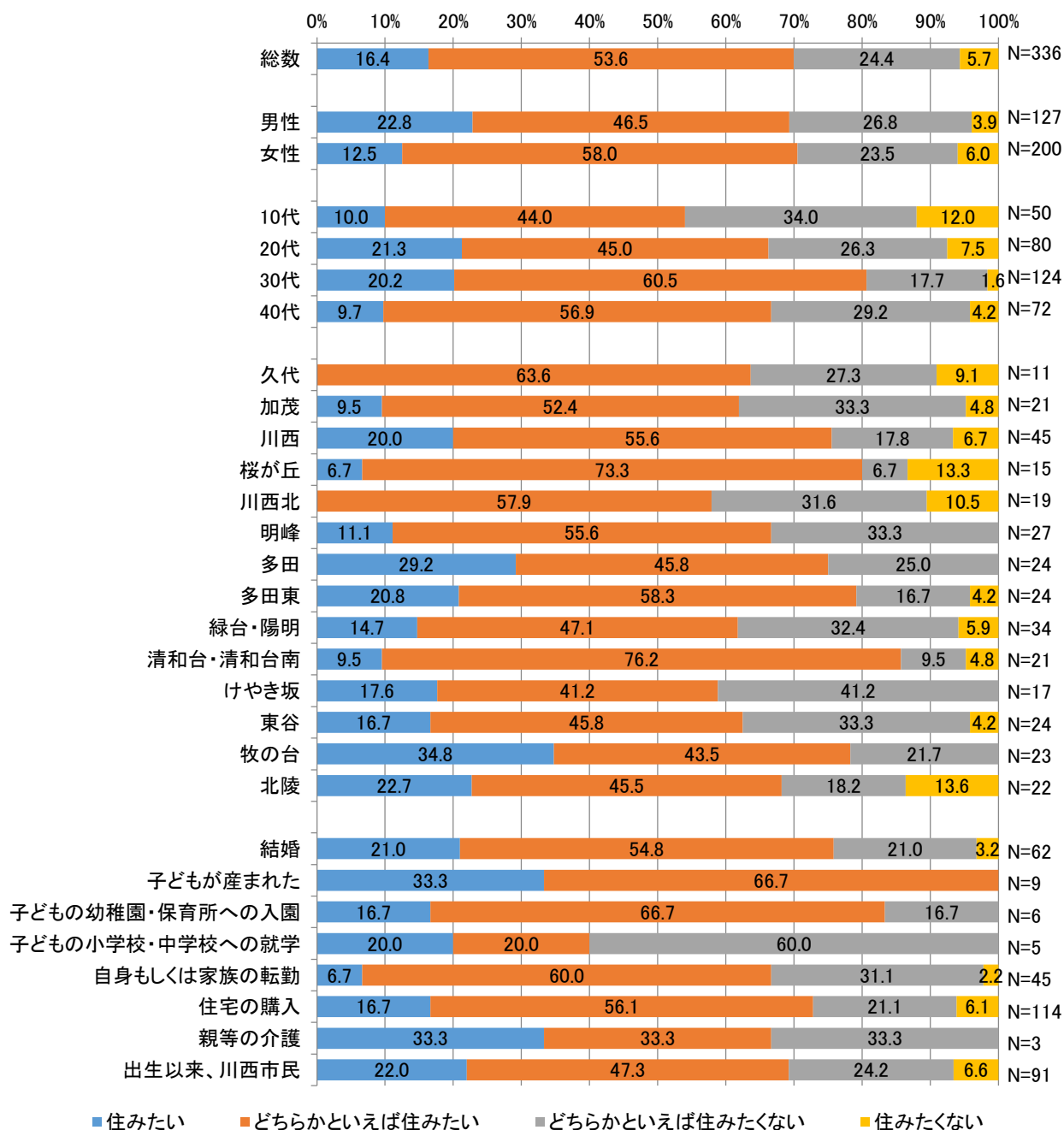
- ・「どちらかといえば住みやすい」が 62.4%と最も高く、「大変住みやすい」の 9.9%とあわせると、7 割以上の回答者が、住みやすいと回答している。
- ・年代別では、20 代、30 代で、住みやすいと感じている回答者割合が高くなっている。



※無回答除く

問 27. 川西市での居留意向とその理由【1つに○】

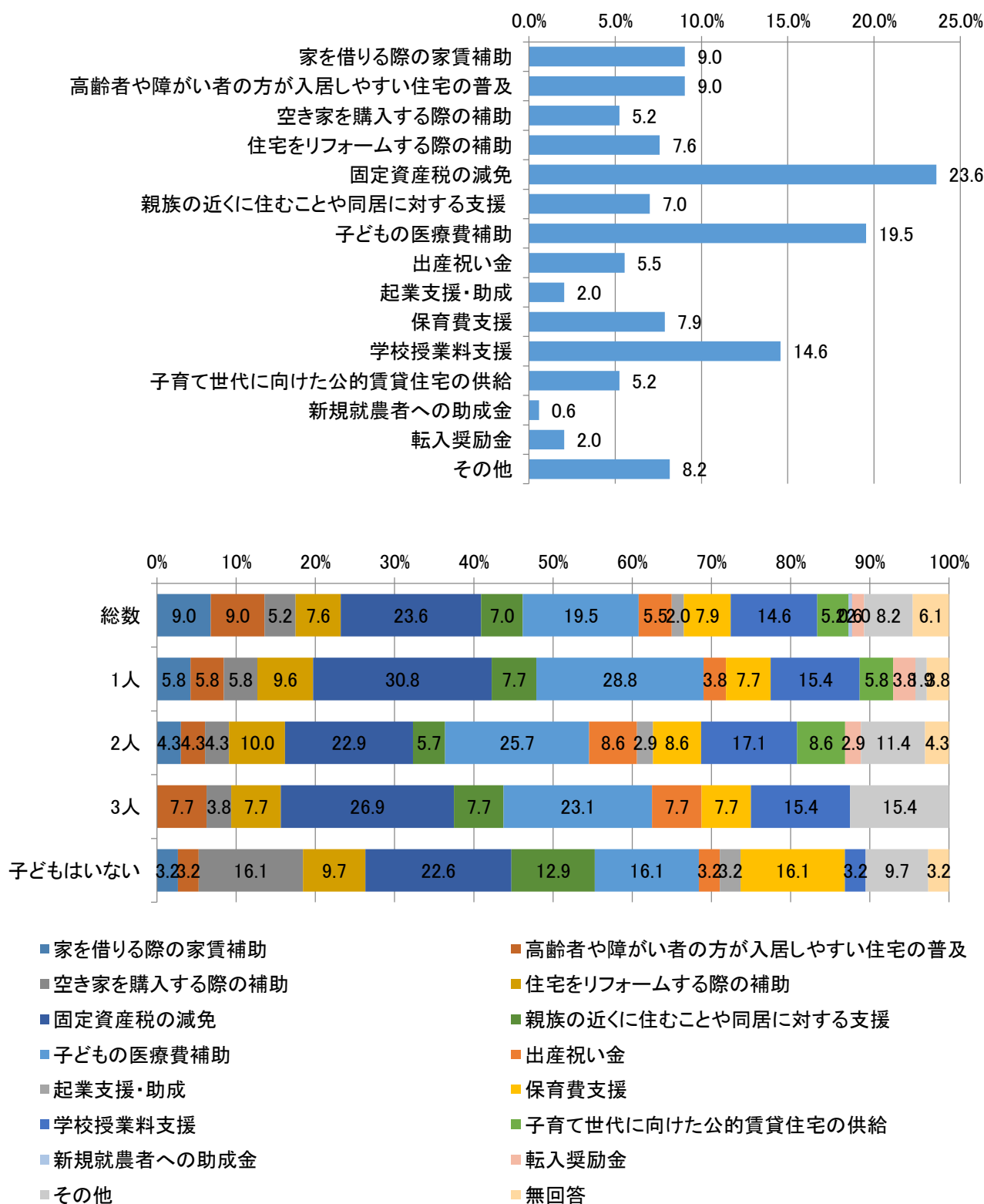
- ・今後の居留意向についてみると、「どちらかといえば住みたい」が 53.6%と最も多く、「住みたい」の 16.4%とあわせ、7 割の回答者が住み続けたいと回答している。
- ・年代別にみると、「住みたい」と回答した割合は 20 代が最も多いが、「どちらかといえば住みたい」と合せると、30 代が最も多く、8 割以上となっている。一方、10 代の居留意向が低くなっている。



※無回答除く

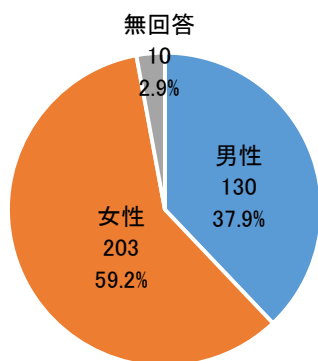
問 28. 川西市に住みたくなるために、あるいは、ずっと住み続けたいするために、市が実施した方が良い（継続した方が良い）効果的な支援

- ・「固定資産税の減免」が最も多く 23.6%、次いで「子どもの医療費補助」が 19.5%、「学校授業料支援」が 14.6%となっている。
- ・現在の子ども人数別にみると、子どものいる回答者では、「子どもの医療費補助」や「学校授業料支援」の割合が高く、子どものいない世帯では、「空き家を購入する際の補助」や「親族の近くに住む事や同居に対する支援」の割合が高くなっている。

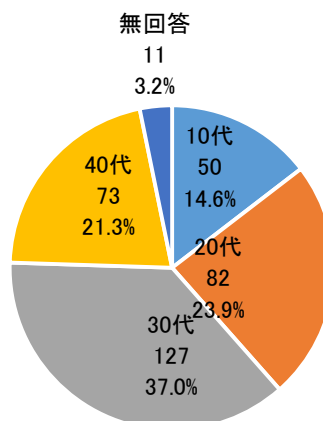


あなたご自身のことについて

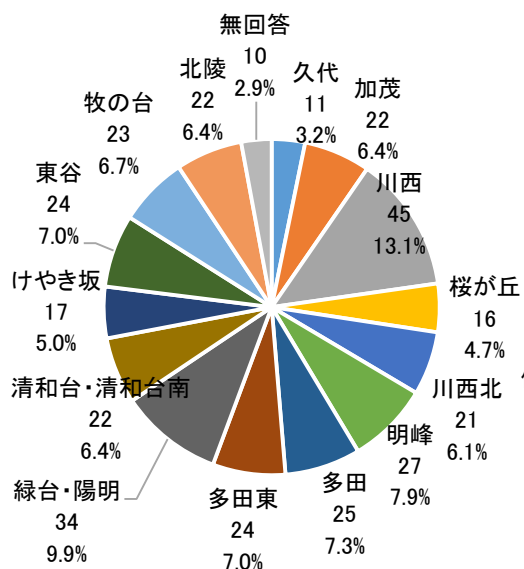
性別



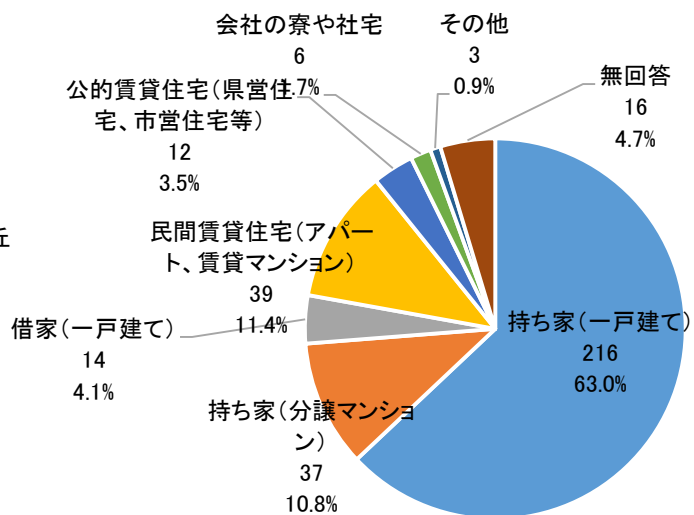
年齢



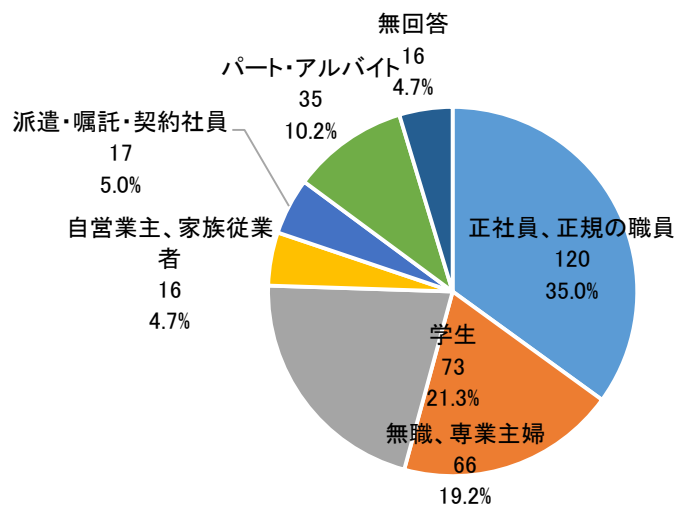
コミュニティ区



居住形態



就業状態

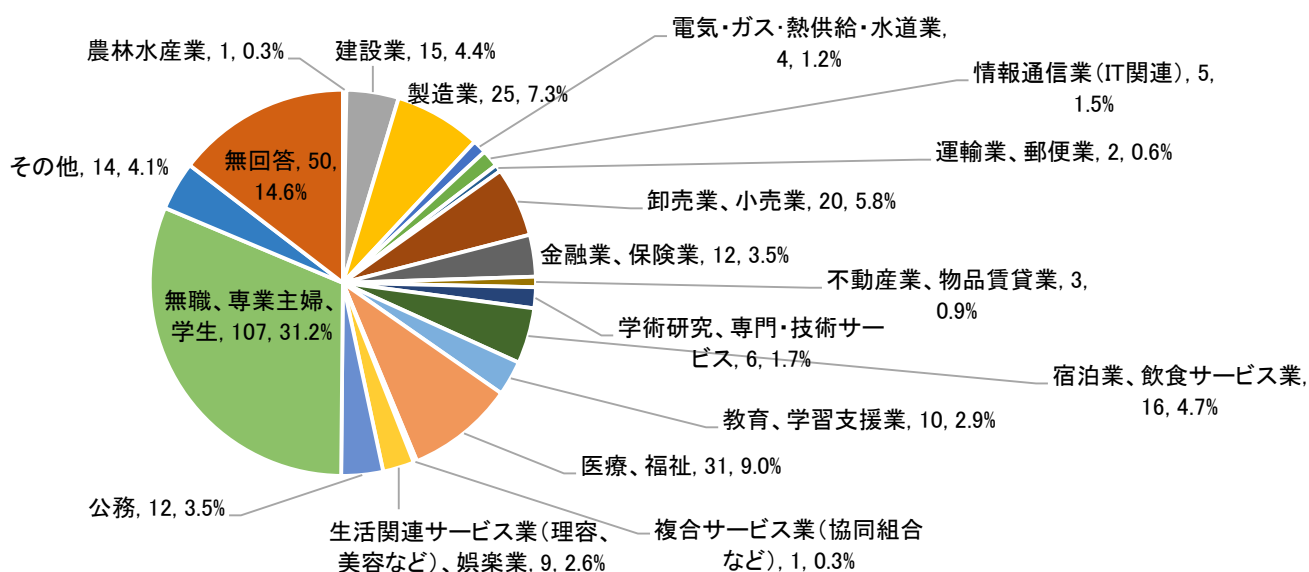


男女・年代別の就業状態

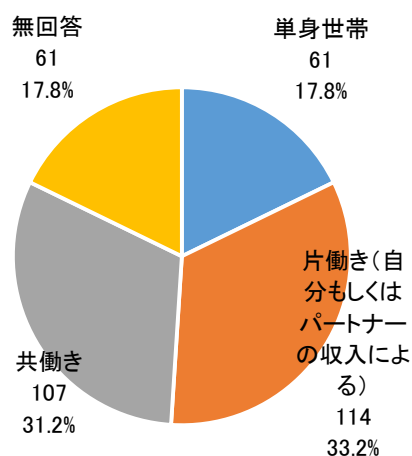
- ・正規職員の割合について、男性は30代、40代で高いが、女性は20代を境に減少傾向にある。
- ・30代女性の無職、専業主婦の割合が高く、40代から低くなり、代わりにパート、アルバイトが増加している。
- ・このことから、本市において、男性は正規職員としての就業率は高く、女性は20代に正規職員として働き、30代では結婚・出産を機に専業主婦に、40代では子育ての傍ら、パート勤務に移行する傾向にあることが伺える。

	男性					女性				
	10代	20代	30代	40代	全体	10代	20代	30代	40代	全体
正社員、正規の職員	0.0%	55.2%	78.8%	79.2%	59.4%	0.0%	39.6%	20.0%	17.0%	21.9%
無職、専業主婦	4.3%	3.4%	7.7%	4.2%	5.5%	0.0%	15.1%	46.7%	34.0%	29.4%
学生	91.3%	34.5%	0.0%	0.0%	24.2%	96.2%	34.0%	1.3%	0.0%	21.9%
自営業主、家族従業者	0.0%	3.4%	9.6%	8.3%	6.3%	0.0%	1.9%	5.3%	6.4%	4.0%
派遣・嘱託・契約社員	0.0%	0.0%	3.8%	8.3%	3.1%	0.0%	7.5%	5.3%	10.6%	6.5%
パート・アルバイト	4.3%	3.4%	0.0%	0.0%	1.6%	3.8%	1.9%	21.3%	31.9%	16.4%

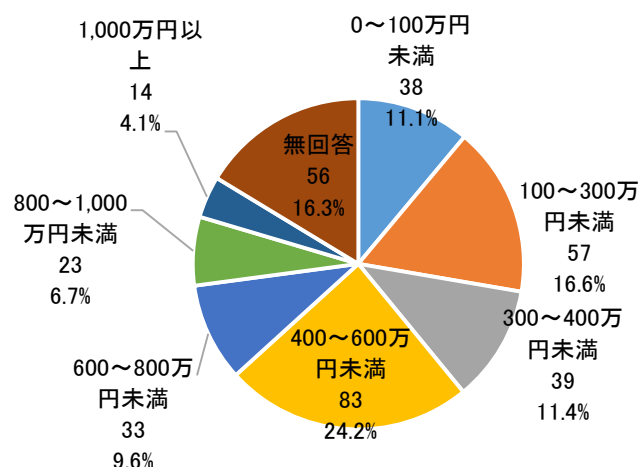
職種



収入世帯構成



年収

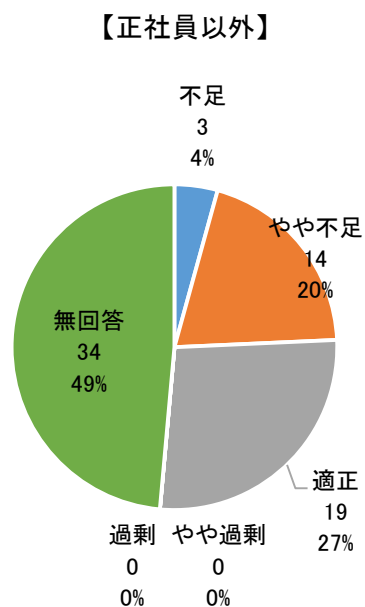
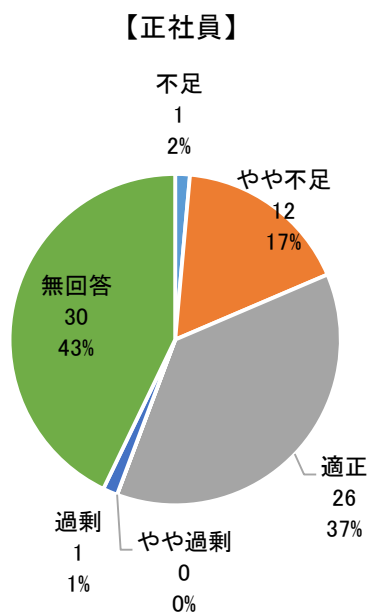


(2) 事業者

貴事業所の雇用状況についてお尋ねします。

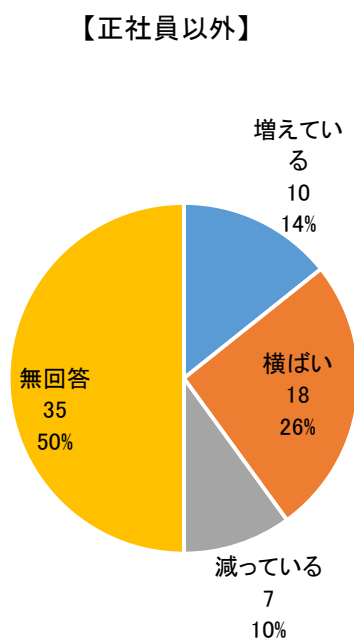
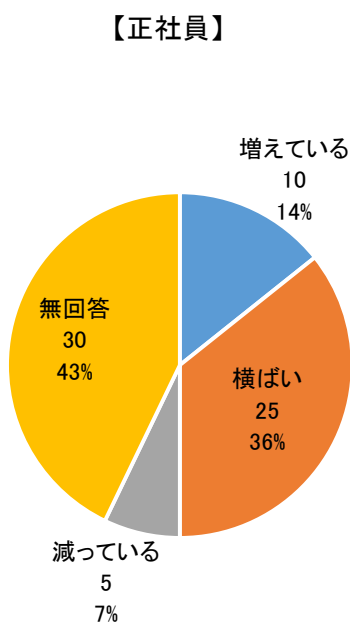
問1. 人手の過不足【1つに○】

- ・無回答を除くと、正社員、正社員以外ともに、「適正」が最も多く、「不足」、「やや不足」の合計はそれぞれ19%、24%となっている。



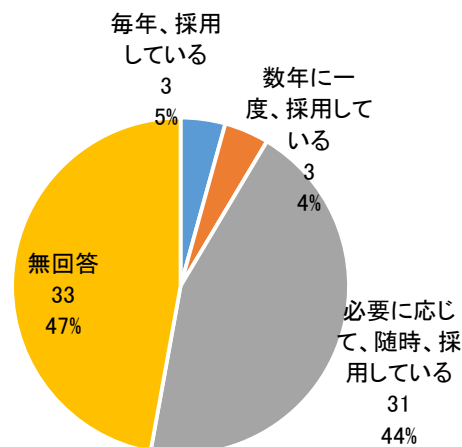
問2. 過去5年間程度の従業員数の増減傾向【1つに○】

- ・無回答を除くと、正社員、正社員以外ともに、「横ばい」が最も多く、次いで「増えている」が14%となっている。



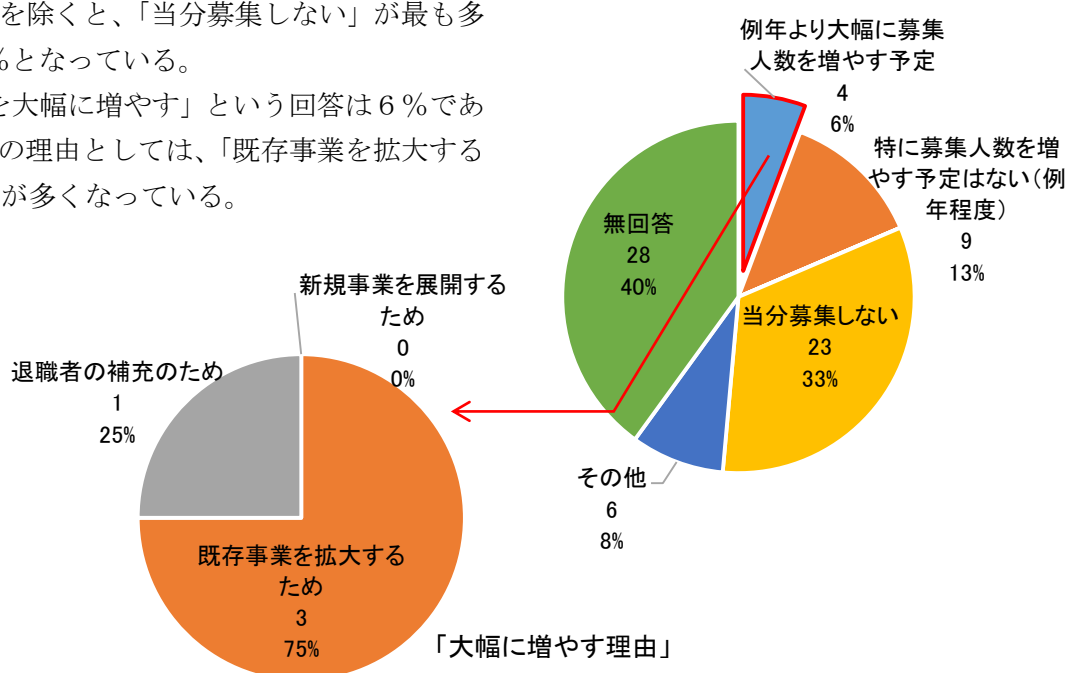
問3. 従業員の定期的な採用の有無

- ・従業員の定期的な採用については、「必要に応じて、随時、採用している」が最も多く 44% となっている。



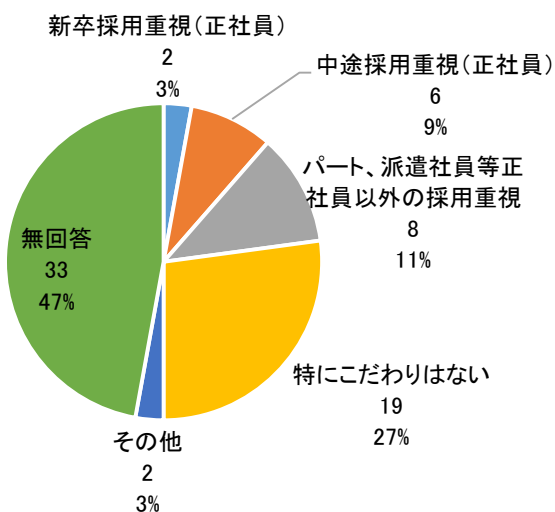
問4. 今後、雇用の拡大意向【1つに○】

- ・無回答を除くと、「当分募集しない」が最も多く 33% となっている。
- ・「募集を大幅に増やす」という回答は 6% であり、その理由としては、「既存事業を拡大するため」が多くなっている。



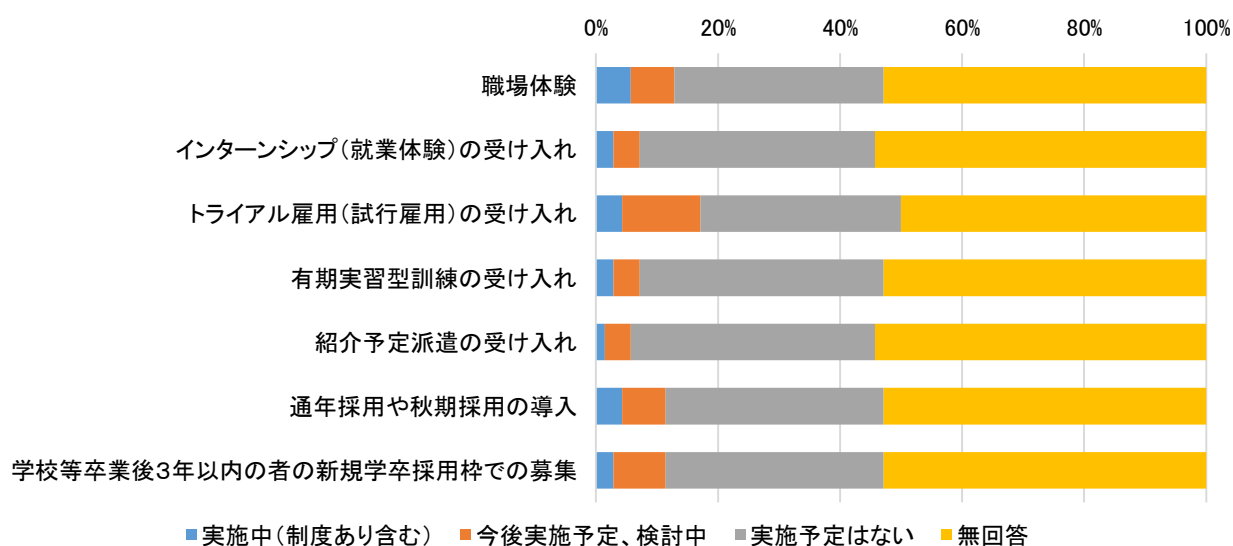
問5. 今後の人材確保において、重視する雇用形態【1つに○】

- ・重視する雇用形態としては、無回答を除くと、「特にこだわりはない」が 27% と最も多くなっている。



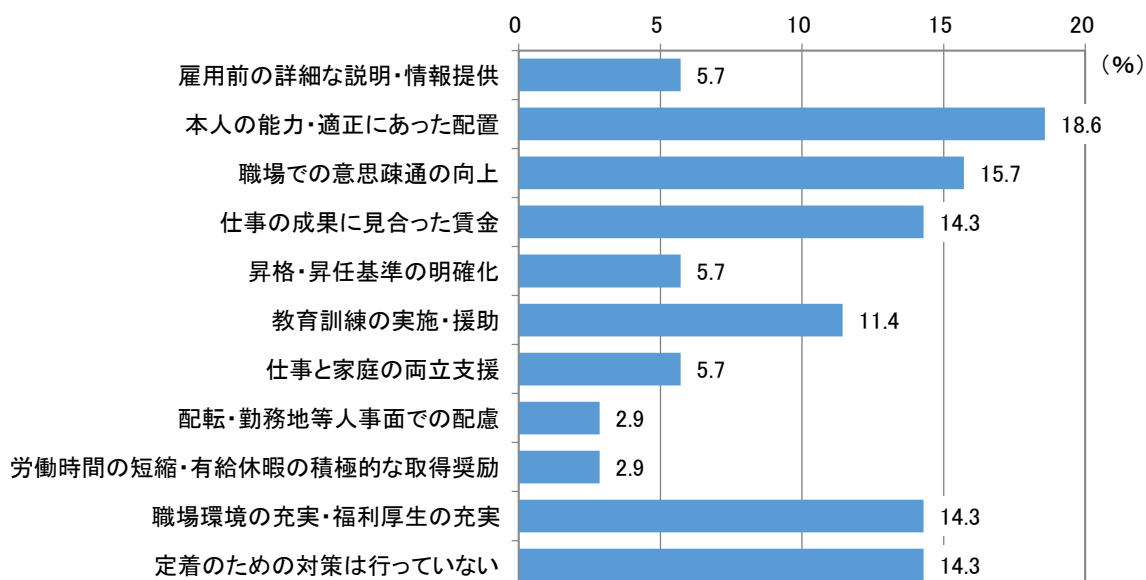
問6. 若者労働者受け入れのため実施している(または、今後実施予定の)取組【あてはまるものに○】

- ・実施中の取組はほとんどなく、「今後実施予定」を含めると、「トライアル雇用（試行雇用）の受け入れ」が2割弱で最も多くなっている。



問7. 若年労働者(正社員)の定着のために実施している対策【あてはまるものすべてに○】

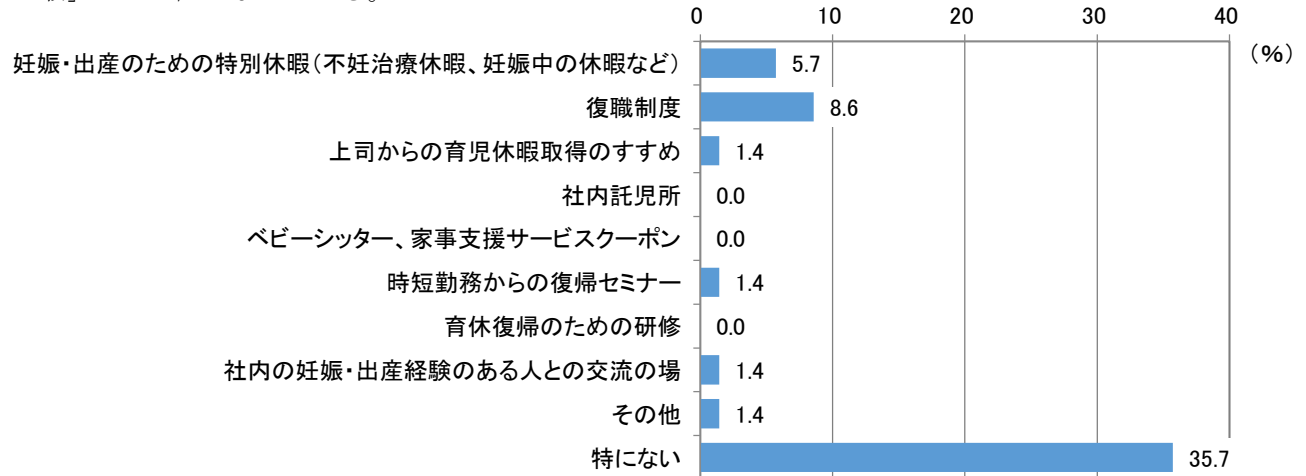
- ・「本人の能力・適正にあった配置」が最も多く 18.6%、次いで「職場での意思疎通の向上」が 15.7% となっている。
- ・一方、「定着のための対策は行っていない」という回答も 14.3% と多くなっている。



出産・子育て支援等についてお尋ねします。

問8. 事業所で実施している出産・子育て支援【あてはまるものすべてに○】

- ・「特になし」が最も多く 35.7%となっており、小規模な事業所が多いことが要因となっている。
- ・実施されている支援としては、「復職制度」が最も多く 8.6%、次いで「妊娠・出産のための特別休暇」が 5.7%となっている。

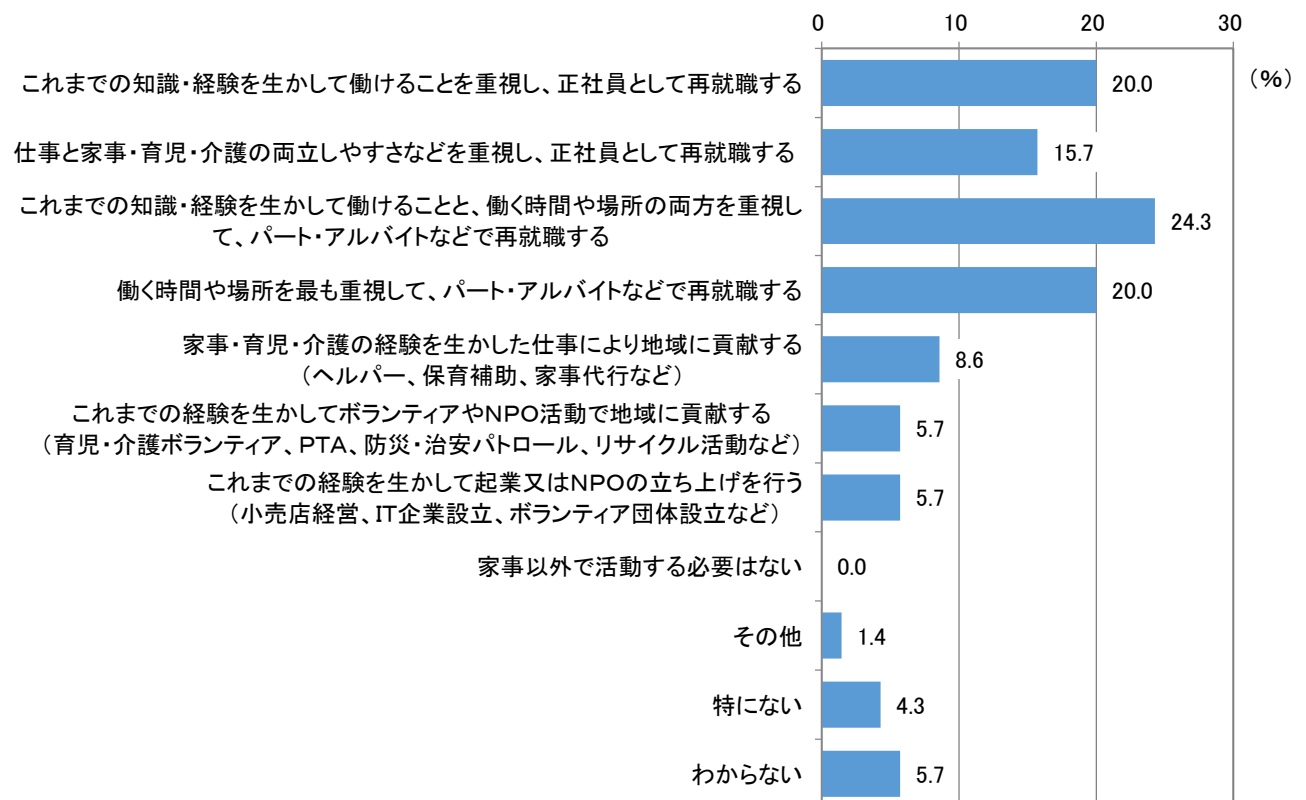


問9. 上記以外で子育て中の従業員からの希望・要望はありますか？【自由記述】

- ・回答は 1 件で、「希望があれば聞くようにしている」と記述されている。

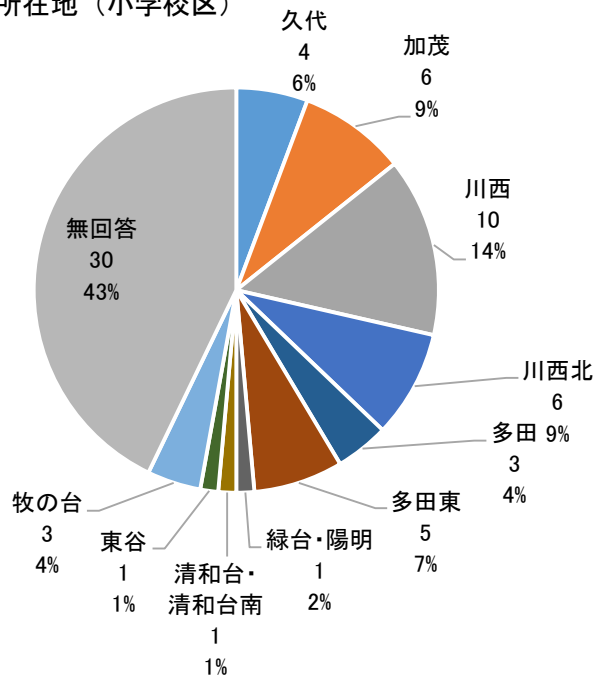
問 10. 出産などでいったん離職した女性、再び社会で活動する仕方【あてはまるものすべてに○】

- 「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」が最も多く 24.3%、次いで「これまでの知識・経験を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する」、「働く時間や場所を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」が 20.0%となっている。

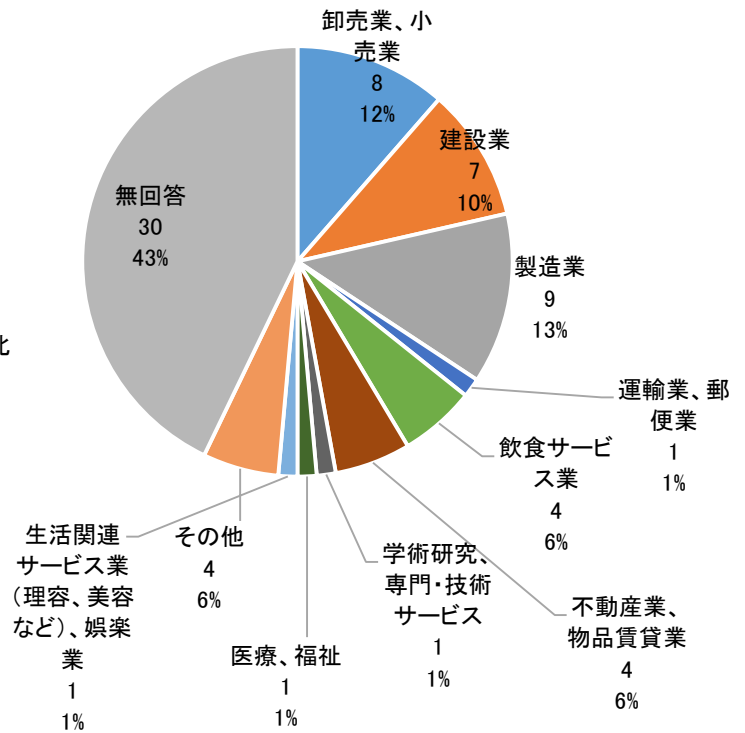


貴事業所について

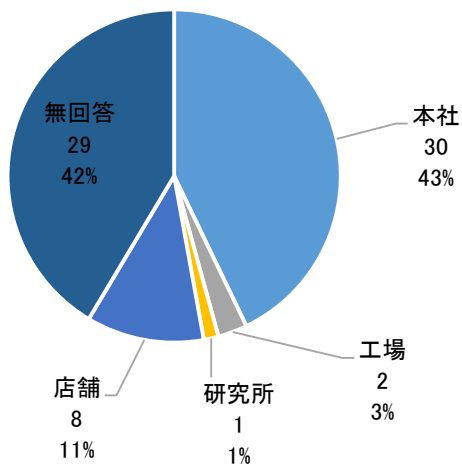
所在地（小学校区）



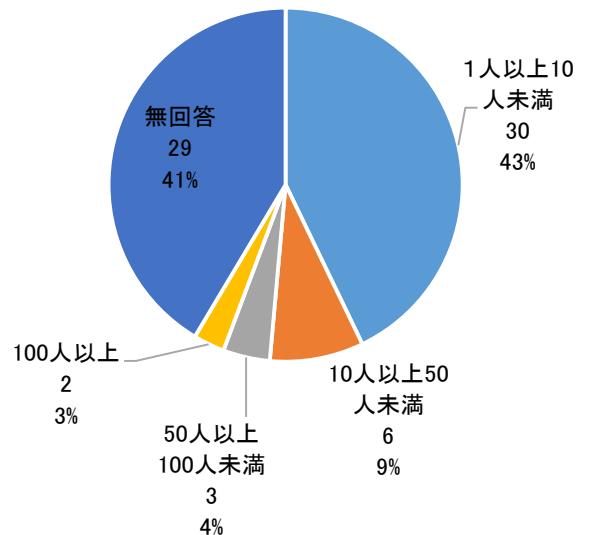
職種



所属事業所



市内の事業所の従業員規模

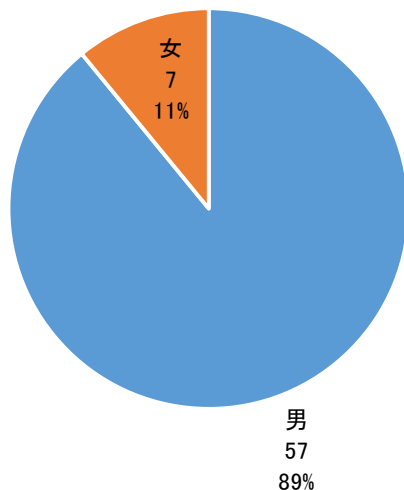


(3) 農業者

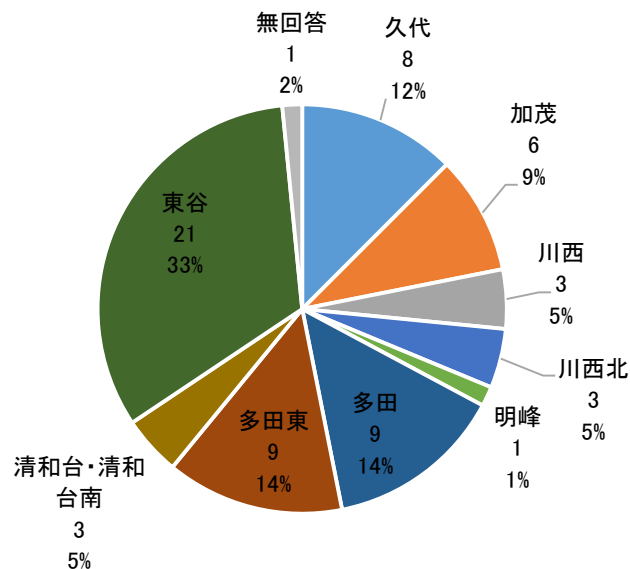
あなた自身のことについてお尋ねします。

問1. あなたご自身のことについて

【性別】

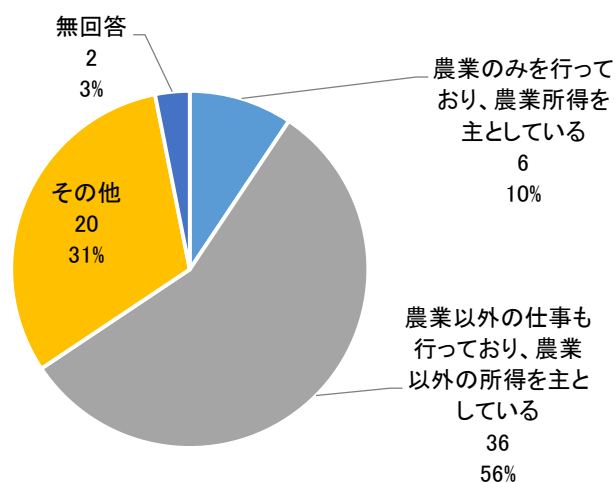


【居住地】



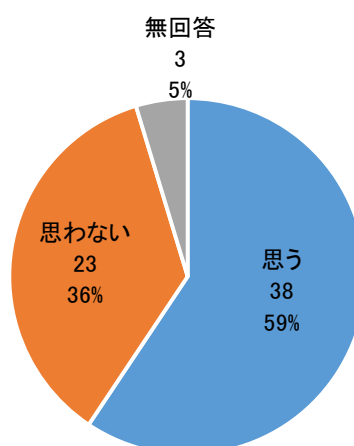
問2. 農業を営んでいる形態【1つに○】

- ・「農業以外の仕事も行っており、農業以外の所得を主としている」兼業農家が 56%と最も多く、「農業のみを行っており、農業所得を主としている」専業農家は 10%となっている。
- ・「その他」としては、自給的農家や、年金を受給しながら農業を営んでいる高齢農家が多くなっている。



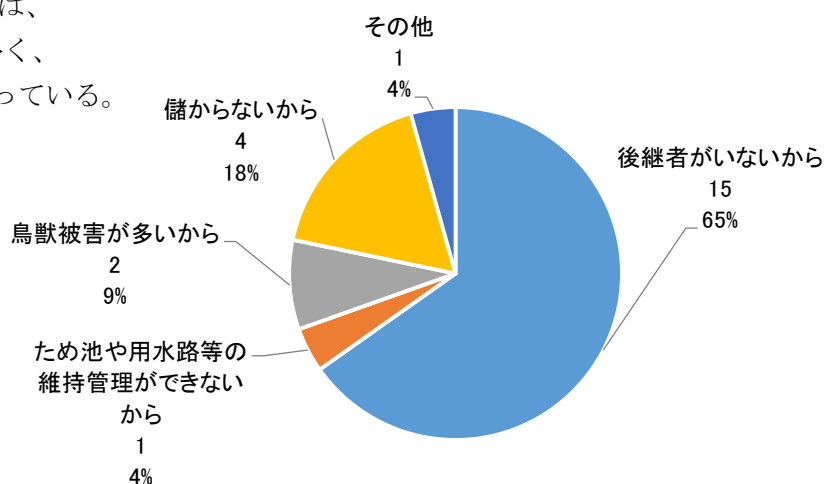
問3. 今後の農業の継続意向

- ・「農業を続けたいと思う」が59%、
「農業を続けたいと思わない」が36%となっている。



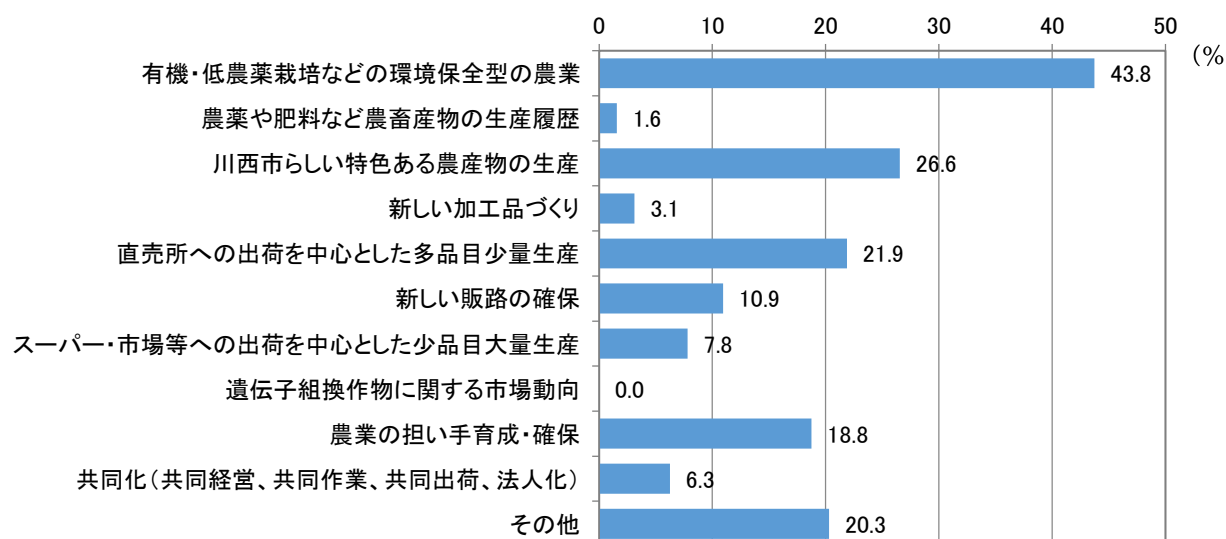
問4. 問3で「思わない」と回答した方の農業を続けたいと思わない理由

- ・農業を続けたいと思わない理由としては、
「後継者がいないから」が65%と最も多く、
次いで、「儲からないから」が18%となっている。



問5. 農業を営んでいくうえで、重視している、または今後重視したいこと【2つに〇】

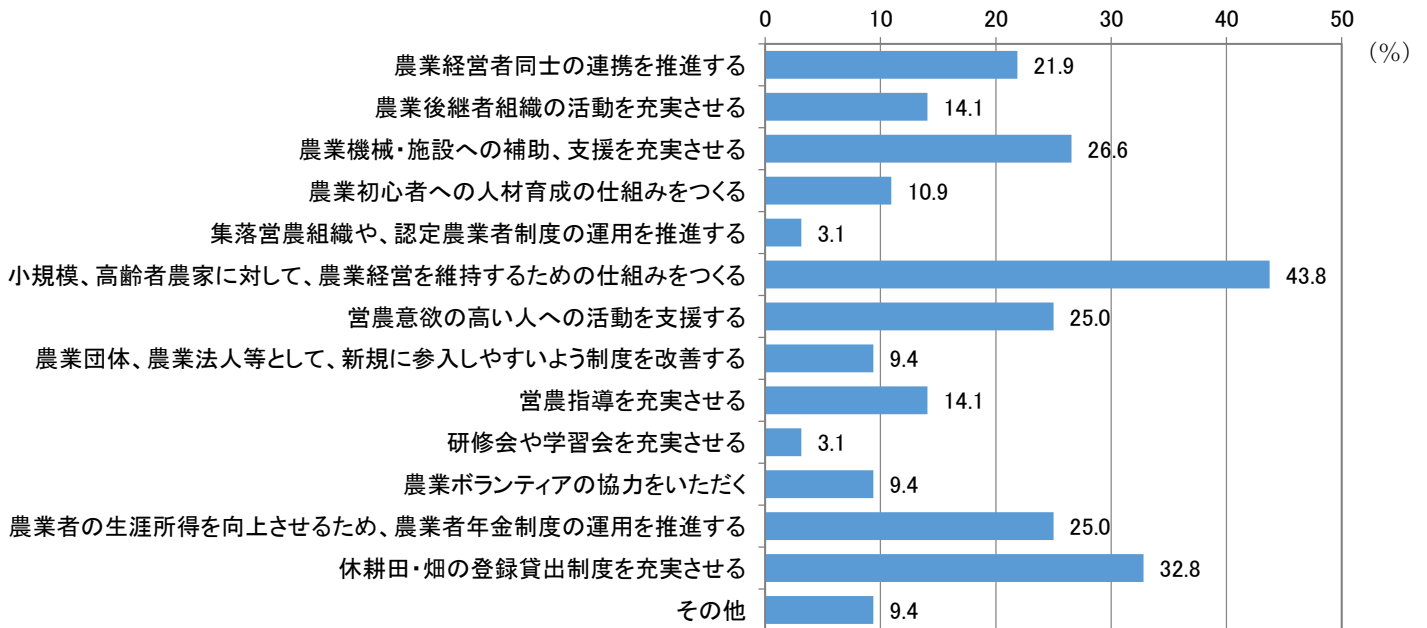
- ・「有機・低農薬栽培などの環境保全型の農業」が43.8%と最も多く、次いで「川西市らしい特色ある農産物の清算」が26.6%となっている。



今後の川西市の農業についてお尋ねします。

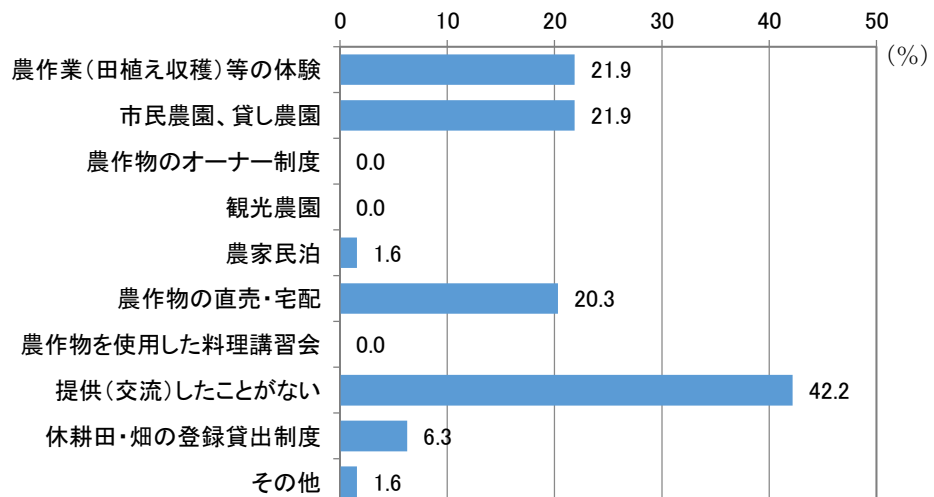
問6. 農業の担い手育成や確保のために必要な取組【3つに〇】

・「小規模・高齢者農家に対して、農業経営を維持するための仕組みをつくる」が43.8%と最も多く、次いで川西市が独自で取り組んでいる「休耕田・畑の登録貸出制度を充実させる」が32.8%となっている。



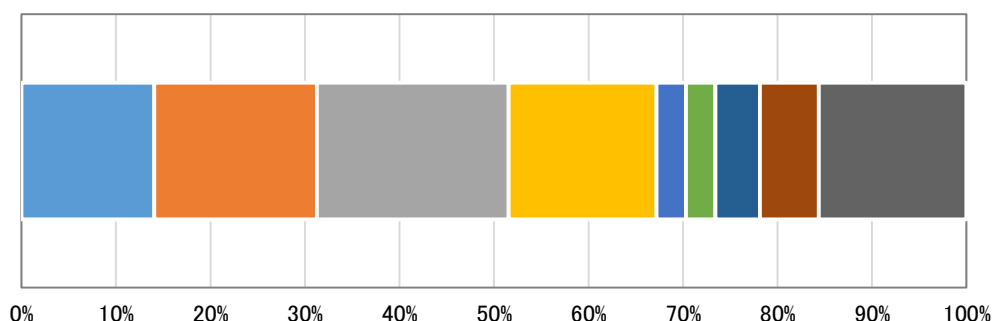
問7. 農地を持っていない人に対して提供(交流)したことがあること【あてはまるものすべてに〇】

・「提供(交流)したことがない」が最も多く42.2%、次いで「農作業(田植え収穫)等の体験」、「市民農園、貸し農園」が21.9%となっている。



問8. 農業・農村を川西市の魅力としていくために必要な取組【1つに〇】

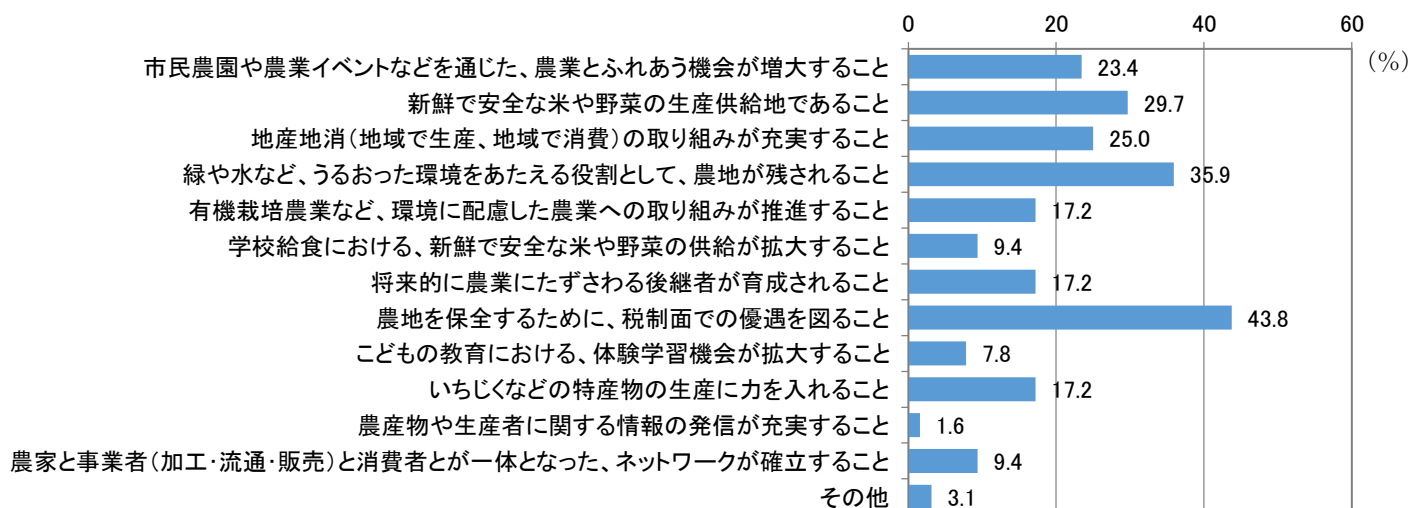
・「農業を気軽に学べる学習の場」が20%と最も多く、次いで「職業として農業を学ぶことができる就農支援施設」が17%、「農業体験ができる場」が16%となっている。



- 農業に関する総合的なインフォメーション施設(案内所)
- 農業を気軽に学べる学習の場
- 料理講習会などで地域の食文化を学べる場
- 農村の歴史や文化を学ぶことができる場
- 無回答
- 職業として農業を学ぶことができる就農支援施設
- 農業体験ができる場
- 観光客に対して農業を楽しむことができる観光農園
- その他

問9. 川西市の農業について期待すること【3つ選んで〇】

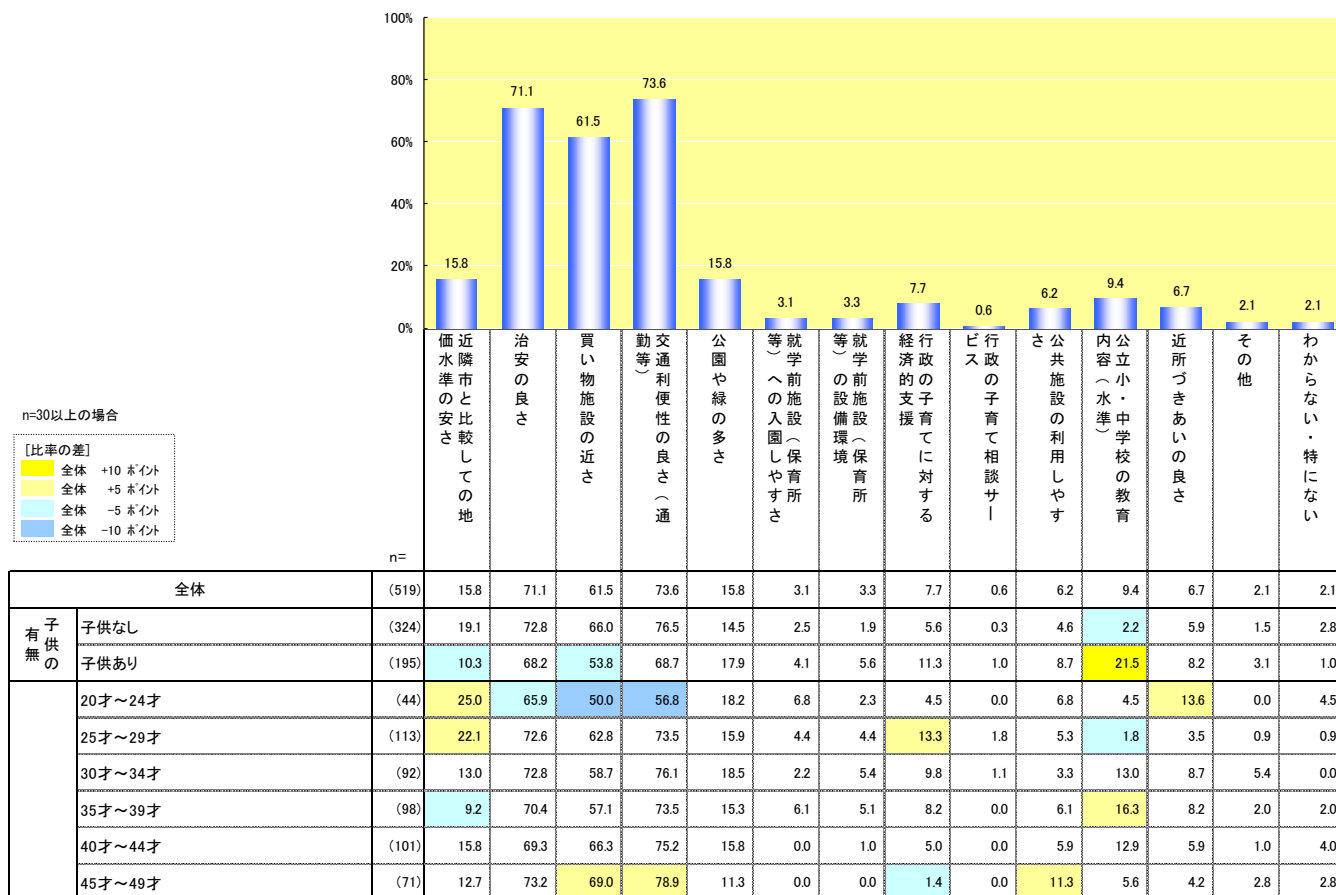
・「農地を保全するために、税制面での優遇を図ること」が43.8%と最も多く、次いで「緑や水など、うるおった環境をあたえる役割として、農地に残されること」が35.9%となっている。



(4) 都市住民

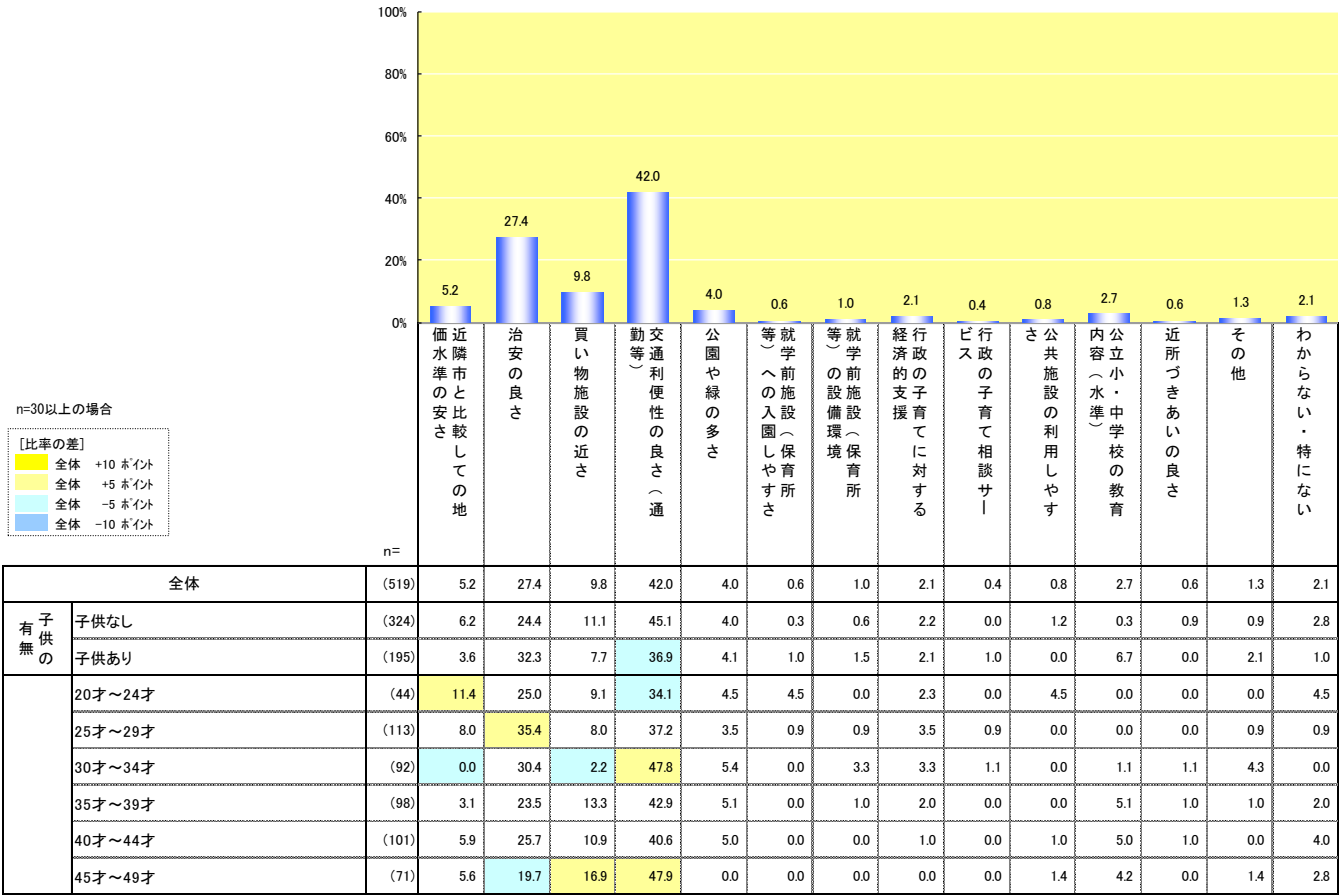
問1. 住み替え先を検討するにあたり重視すること【あてはまるもの 3 つ】

- ・住み替え先を検討するにあたり、重視することとしては、「交通利便性の高さ（通勤等）」が73.6%と最も多く、次いで「治安の良さ」が71.1%、「買い物利便性の良さ」が61.5%と、突出して多くなっている。
- ・子供の有無別に見ると、子供ありの回答者の方が、「公立小中学校の教育内容（水準）」を選ぶ割合が高くなっている。



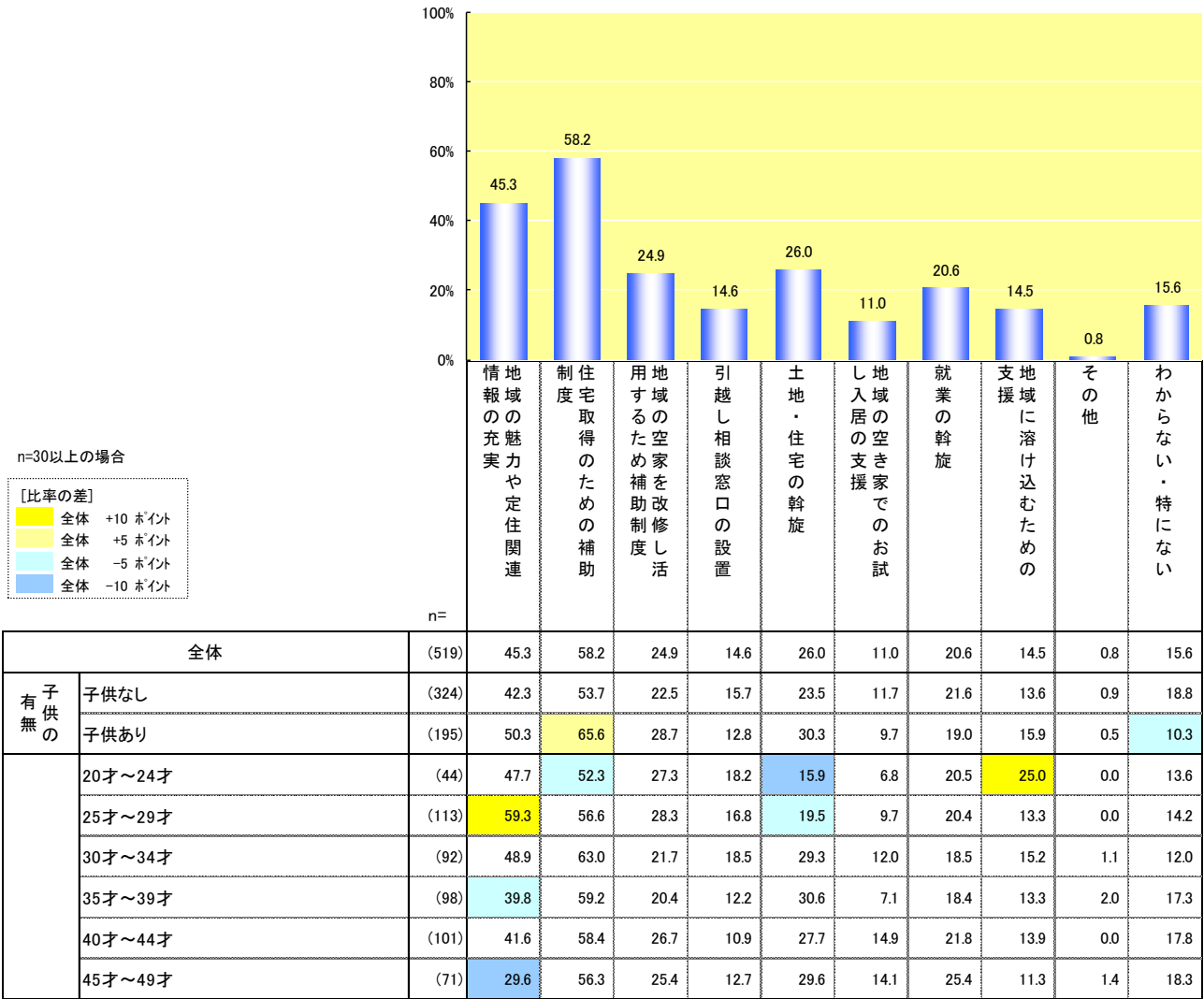
問1'．住み替え先を検討するにあたり最も重視すること【最もあてはまるもの1つ】

・住み替え先を検討するにあたり、最も重視することとしては、「交通利便性の高さ（通勤等）」が 42.0%と最も多く、次いで「治安の良さ」が 27.4%、「買い物利便性の良さ」が 9.8%となっており、住環境に対するニーズが高いことがうかがえる。



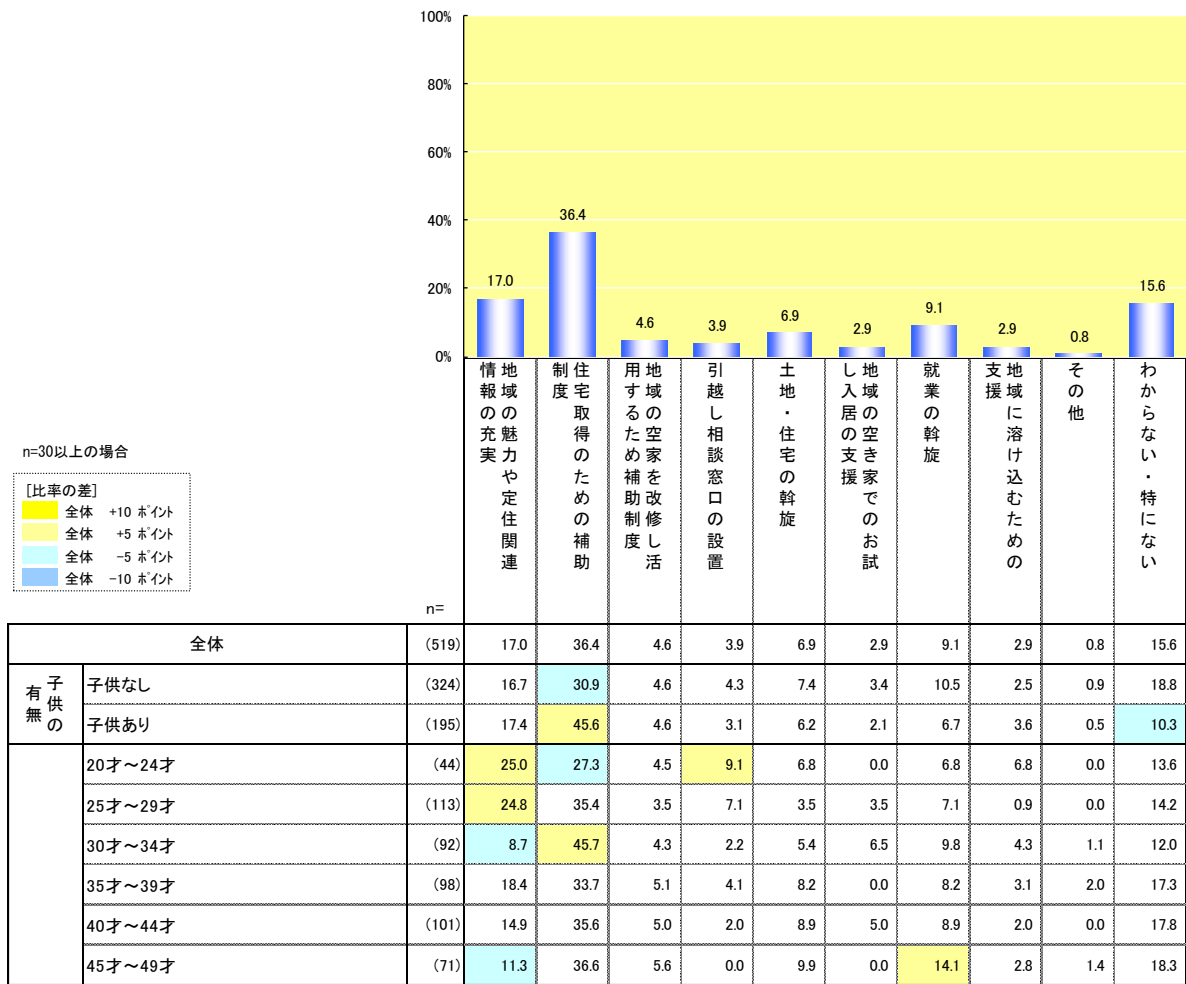
問2. 地方自治体の移住支援策として必要なもの【あてはまるもの3つ】

・移住支援策としては、「住宅取得のための補助制度」が最も多く 58.2%、次いで「地域の魅力や定住関連情報の充実」が 45.3%となっています。



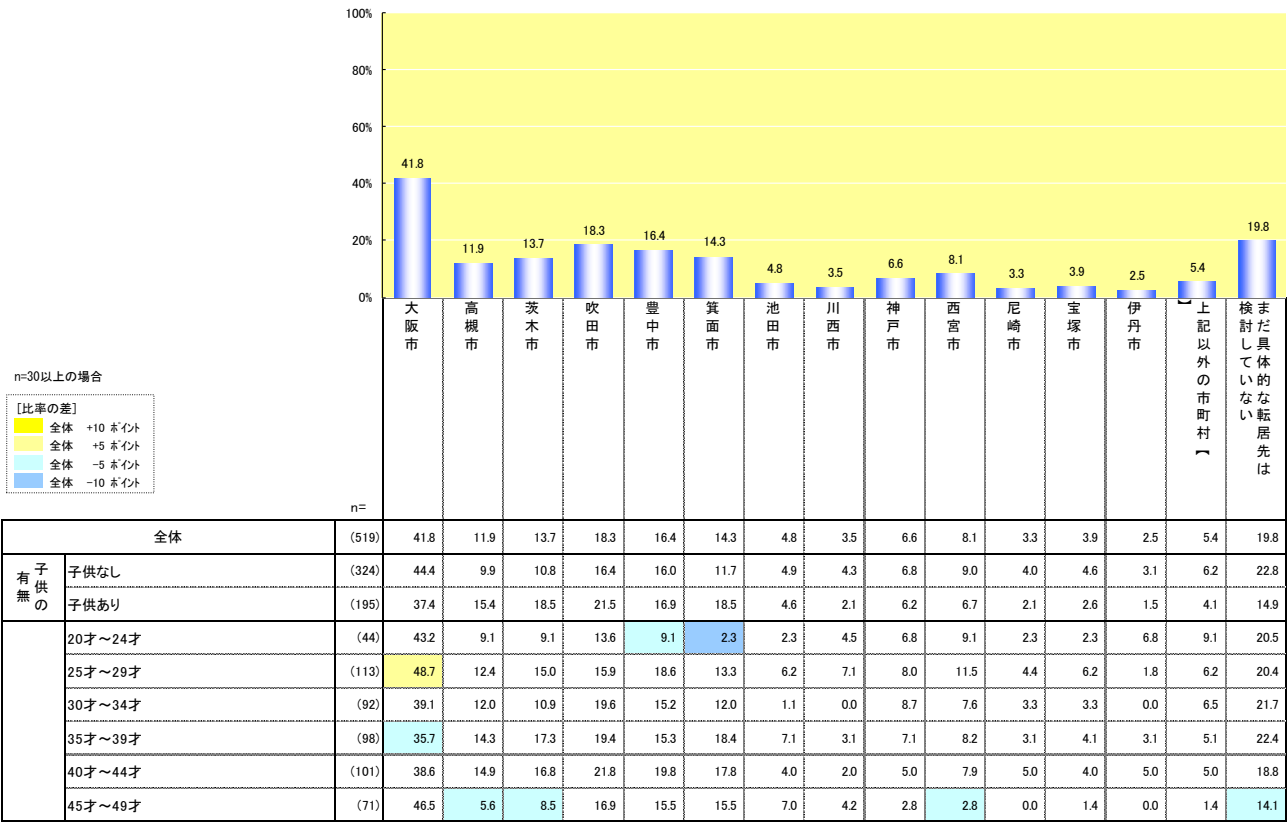
問2' 地方自治体の移住支援策として最も必要なもの【最もあてはまるもの1つ】

・移住支援策として最も重要なものは、「住宅取得のための補助制度」が最も多く 58.2%、次いで「地域の魅力や定住関連情報の充実」が 45.3%となっています。



問3. 具体的に検討されている転居先

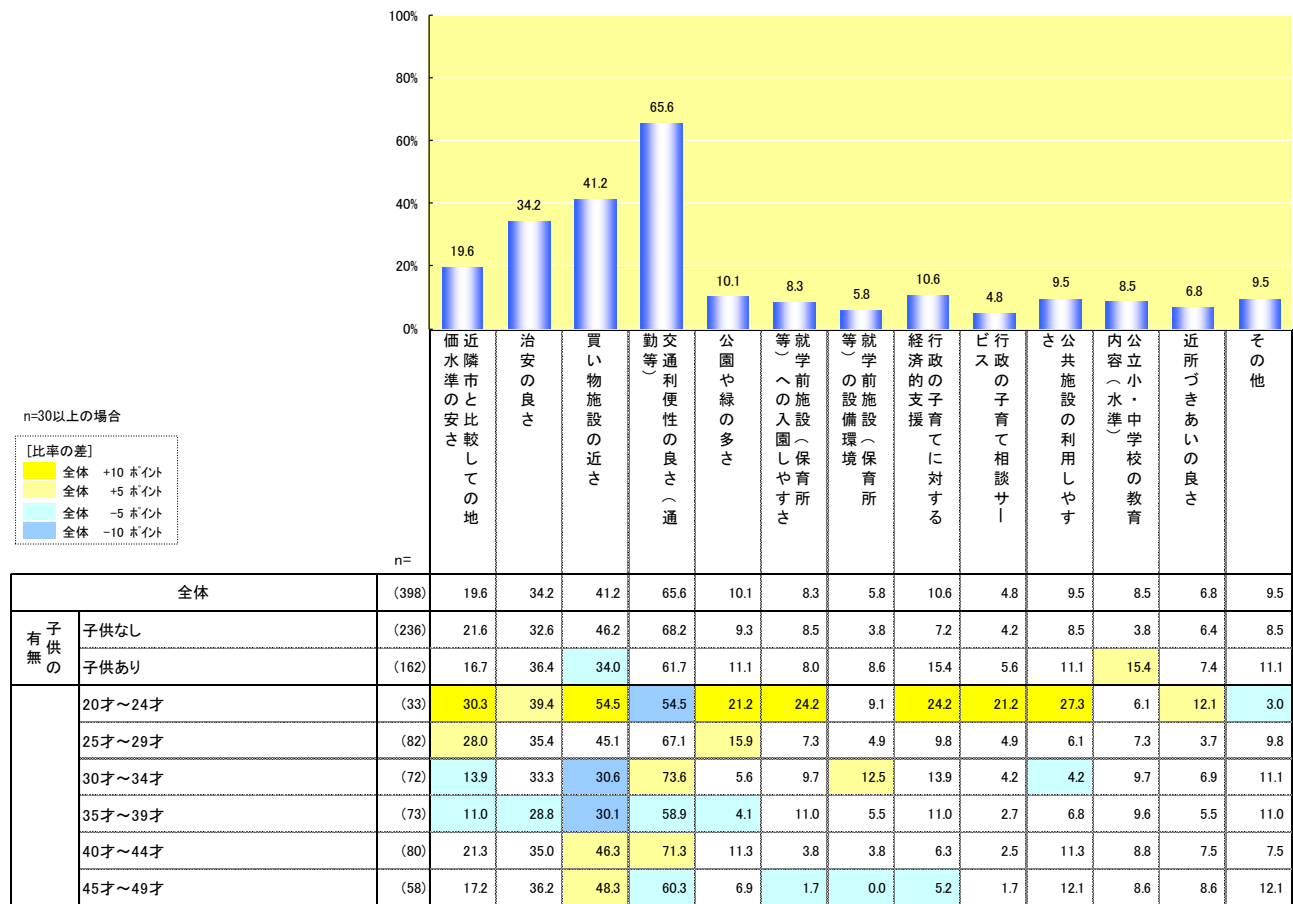
- ・具体的に検討している転居先としては、「大阪市」が 41.8 と最も多く、次いで「まだ具体的な転居先は検討していない」が 19.8%となっている。



問4. 川西市を転居先として考えていない方にとって、川西市が転居の有力な候補になる条件

- ・「交通利便性の良さ（通勤等）」が最も多く 65.6%、次いで「買い物施設の近さ」が 41.2%、「治安の良さ」が 34.2%となっている。
- ・最も重視する項目としては（次頁）、「交通利便性の高さ（通勤等）」が最も多く 52.0%、次いで「治安の良さ」が 12.3%となっている。

【あてはまるものすべて】



【最もあてはまるもの1つ】

